

兵 庫 医 科 大 学 同 窓 会



緑 樹 会 会 報



特集 COVID-19対応の最前線

2021.10.01

No. 79

兵庫医科大学同窓会

緑樹会 会報



緑樹会(RYOKUJUKAI)のシンボルマークは、頭文字「R」を「RYOKU(緑)」と「JU(樹)」2つのパーツに分けて、医学の守護神アスクレピオスの杖を表現しています。

今号の表紙



武庫川病院

兵庫医科大学の前身である武庫川病院は、1927年に森村茂樹先生の父、森村真澄先生が開院。病院の赤屋根がトレードマークの病院だった。1959年には鉄筋3階建ての新病棟が完成。内科と精神科あわせて約70床となった。1968年に4階・5階部分を増築。これが兵庫医科大学開学当初の2号館となっている。

CONTENTS No.79

GREETINGS

- 03 会長あいさつ
緑樹会会長 石藏 礼一
開学50周年にむけて
兵庫医科大学後援会会長/緑樹会理事 清水 聡一郎

FEATURES

- 04 **特集**
兵庫医科大学
ダイバーシティの取り組み

- 08 **CLOSE UP**
COVID-19
対応の最前線

- 12 開学50周年記念
森村賞受賞者の今

- 16 教授就任のご挨拶
19 医師会会長就任のご挨拶
20 要職就任のご挨拶
21 准教授・講師就任のご挨拶
23 留学体験記
24 受賞報告
25 アスリートを支える
26 研修医たより
大学院研究日記
27 医局紹介
28 学会開催報告・案内
29 総会報告
30 会計報告

- 31 **開学50周年特別企画**
アーカイブズ室より

- 32 あのころ通った、なつかしの味

- 33 緑樹会からのお知らせ
議事録/事務局より/支部一覧/編集長コラム/編集後記

会

会長あいさつ



開学50周年に向けてお祝いの挨拶

石藏 礼一 (昭和57年卒業) | 緑樹会会長

兵庫医科大学は来年3月に開学50周年を迎えます。私が入学した当初は新設大学医学部と言われ、歴史や伝統もない状態でした。全学年が揃っておらずクラブは掛け持ち状態、大学講義は現在と異なり医師国家試験に則したものではありませんでした。そして関西医科大学や大阪医科大学(現大阪医科大学)は既に創立約40-50周年を迎え伝統ある大学と受け止められていました。しかし、兵庫医科大学も現在では新設大学医学部と言われなくなりました。学生教育も充実し、医師国家試験合格率は常に上位です。

地域医療から先端医療を担う大学病院に大きく成長しました。これらは大学教職員をはじめ病院のスタッフである看護師、医療技術者、そして大学職員の皆様の努力の賜物だと思います。卒業生も母校の教授となり、二世が大学を卒業し、親子2世代医師として活躍を始めています。ただ寂しいのは、ゲストハウス(旧森村邸)や大学中庭などの懐かしい場所はなくなり、創立当時の建物は現在の1、2号館のみとなりました。ゲストハウスは当時、故森村茂樹先生と先輩方が大学の将来について話されたりクラブの歓迎迎会に使用し

ていました。懐かしい限りです。

50周年記念事業では、兵庫医科大学と兵庫医療大学が合併します。大学名に変更はありませんが、慣れ親しんだHとIの重なった赤と緑の二色の校章が新しく変わります。兵庫医科大学は、急性期総合医療センター、新病院建設など、最新医療機器を備えた大学病院へと進化しています。ハード面の充実化と、森村茂樹先生の建学の精神によって帰属意識や緑樹会員の絆を基本として兵庫医科大学は新たな伝統を築きながらさらに進化していく事を祈念しています。

50TH

開学50周年にむけて



開学50周年 更なる今後の発展を願って

清水 聡一郎 (平成2年卒業) | 兵庫医科大学後援会会長/緑樹会理事

兵庫医科大学開学50周年おめでとうございます。時々緑樹会と混同される方がおられますが後援会は大学保護者の組織であり言わばPTAのような役割をしています。開学当初は父兄会と父兄会互助会がありましたが、その後合併編成されて現在の後援会ができたこと聞いております。そして開学50年ともなると兵庫医科大学を卒業された方の御子息がまた兵庫医科大学に入学されるケースも多くなってきました。私の卒業年度は平成2年ですが、この年は現在まで7名も入学され、親が集まった時はミニ同窓会のようになります。そしてそ

うの子供達も卒業し、これからまた20年、30年後はその子供達(私達からしたら孫になりますが)が入学して…と少し気が早いようですが次の70周年、80周年、更には100周年に向かって脈々と受け継がれていって欲しいと思います。私は平成2年卒業の13回生ですので残念ながら創設者の森村茂樹先生に直接お会いする事は出来ませんでした。先輩方の話によると直接森村先生とお話する事はもちろん、自宅に何度も招かれて非常に和気あいあいとした雰囲気だったようです。その雰囲気が50年経った今でも引き継がれている

ような気がしてなりません。

卒業生の皆様は最近の兵庫医科大学にお越し頂いたことがあるでしょうか?多くの卒業生の方が勉学に勤しんだ思い出深い2、3、4号棟、医聖祭を楽しんだ中庭などは跡形もなくなり、その代わりに新しい教育研究棟、駐車場が建っています。また数年後には新病院の建て替えも予定されています。少し寂しくもありますが建物は年数が経てば老朽化します。それほどの歴史が出来てきたのだと前向きに捉えて、更なる今後の兵庫医科大学の発展を心より願っております。



兵庫医科大学
学長補佐・ダイバーシティ推進室長
消化器内科学 教授

飯島 尋子 (昭和58年卒業)

日本内科学会 認定医・指導医
日本消化器病学会 理事 消化器病専門医・指導医
日本肝臓学会 理事 肝臓専門医・指導医
日本超音波医学会 理事 超音波専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
日本消化器集団検診学会 認定医
日本消化器がん検診学会 認定医・内科認定医
医学博士(1995年)



Diversity

特集 兵庫医科大学
ダイバーシティの取り組み

学校法人兵庫医科大学は令和2年度、文部科学省の女性研究者活動支援事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に採択されました。

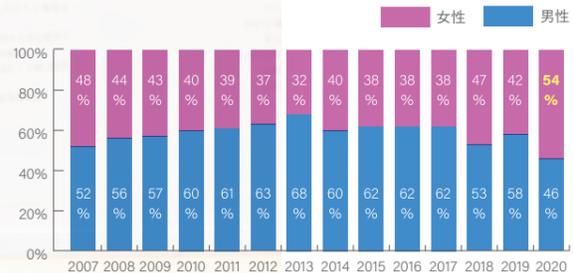
そのことを受け、兵庫医科大学のダイバーシティの今とこれからの

ダイバーシティ推進室長 飯島尋子教授と緑樹会理事 橋本昌樹先生の対談をご紹介します。

また、女性医師として最前線で活躍している新堀曜子先生からもご寄稿をいただきました。

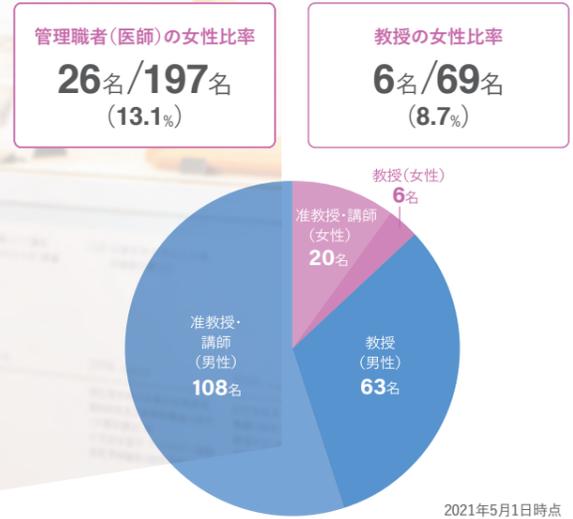
兵庫医科大学ダイバーシティに関するデータ

兵庫医科大学 入学者数 男女比推移



兵庫医科大学 管理職者(医師)*における男女比率

*管理職者(医師)=兵庫医科大学(西宮・篠山)に所属する「臨床系・基礎系(寄附講座含む)」の医師のうち、講師以上の役職者



2021年5月1日時点

ダイバーシティ推進本部・推進室とは

2020年4月に兵庫医科大学のダイバーシティ推進事業を本格化するため、設立されました。

真に活力ある組織となるため、性別等の属性にとらわれず、多様な人材が活躍できる環境構築を目指します。

同年11月には、女性医師等のキャリアアップや研究力向上を支援するための行動計画が「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」に採択されました。

女性医師等の豊かなキャリア形成支援のため、キャリア支援センターを新設し、意識啓発や研究支援等、さまざまな活動を行っています。



※2大学長、2病院長、人事担当理事、推進室長、医療人育成研修センター長、看護部長、事務局長、人事部長、総務部長

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブとは

文部科学省が実施する科学人材育成費補助事業のひとつであり、女性研究者のワークライフバランスに考慮した環境整備や研究力向上に向けた取り組み、また上位職への積極登用や復職支援の取り組みなどを支援するものです。

兵庫医科大学は、令和2年度から6年間の科研費に採択されました。年間上限3,000万円です。3年間の補助を受け事業を立ち上げ、残る3年間で本学独自の事業に展開します。

兵庫医大の未来を見据えて

～女性医師のキャリア支援と環境整備～

Q.1 橋本先生(以下橋本):ダイバーシティや女性活躍の推進は社会全体でよく耳にするワードになっていますが、医学界での現状はいかがですか。
飯島先生(以下飯島):どこの教室も男性がまだ優位に立っておられるところが多いですね。これは男性が外で働き女性は家という考えが根強い日本古来の

社会的背景も大きく影響していると思います。実際、兵庫医科大学だけではなく、社会全体としての傾向です。橋本先生と同じ年代の方が上に立つような時代になればまた自然に変わってくるかもしれませんが、今のところは、女性を支援していく仕組みが必要かなと思います。

Q.2 橋本:2020年にダイバーシティ推進本部を設置し、飯島先生がその室長にご就任されましたが、それまではどのような取り組みがあったのでしょうか。
飯島:男女共同参画への取り組みは、学生に対する男女共同参画講義を2010年から開始しています。これは、日本医師会の女性医師支援制度の影響も大きかった



女性の働く環境を整えなければ

兵庫医科大学

ひいては医学界全体も危機に

と思います。2016年には野口学長が、私と高橋敬子先生(平成元年卒)、蓮池由起子先生(平成3年卒)に声をかけてくださって、女性の今後の活躍について議論させていただく機会も作ってもらえました。ただ、診療や研究を行いながら、なかなか具体的な行動には移せない。そこでやはりこの事業を強力に進めるためには制度を作る必要があり、そのためには金銭的なバックアップが必要だと感じ、このダイバーシティ研究環境実現イニシアティブに応募しました。申請準備も相当時間をとられ大変でしたが、ダイバーシティ・キャリア支援の事務の方の強力なバックアップも得られ何とか採択されました。

橋本:それがきっかけで、ダイバーシティ推進本部の設置につながったんですね。どんなところが変わりましたか。

飯島:一番変わったのはダイバーシティ推進は、本学全体で取り組まないと実現できないので、法人本部との連携が比較的スムーズになったことだと思います。ダイバーシティ推進本部単独ではなく、法人(兵庫医科大学)として進められるようになったことは大きいと感じています。あとは、実行と継続が出来るかが重要です。

Q.3 **橋本:**これは私の経験ですが、チューリヒ大学の呼吸器外科に留学に行ったとき、たまたま所属するチームの医師や研究者、解析者、技術者まで、全スタッフが女性だったのが印象的でした。

飯島:日本は昔から女性が家庭を守り、男性が外で働くという社会的通念があったので、どうしても男性が優位です。でも本来ならば男性ばかりでも女性ばかりでも

なくバランスよく活躍できるのが理想です。**橋本:**ところが、今の兵庫医科大学では教授の女性割合が8.7%です。

飯島:主任教授で見ると2人だけなんです。ちょっとバランス的には悪いですね。学生数で見ると近年は女性の学生の割合がさらに増えていて、昨年は50%を超えています。このまま女性が働き続けられない状況が続くと、医師不足で医療が成り立たなくなっていく可能性が非常に高いと思います。

Q.4 **橋本:**今回の科研費はどのように活用しますか。

飯島:まずはキャリア支援です。大きな目標は、なるべく早く本学出身の女性教授を誕生させること。そのために、先ず助教や講師クラスの方々に上を目指して是非頑張ってもらい、さらに若い先生方に繋げて欲しいと思います。そのために研究支援を行います。また、もう一つ重要なのが環境整備です。継続的にキャリアアップを目指すためには、ライフイベント中やこれから出産・育児を迎える女性医師が一人でも多く医師として働きやすい環境を提供しないといけないと考えています。例えば、今ファミリーサポート制度というものを計画しています。主に本学を定年退職した人など登録してもらい、子どもの発熱時などに代わりに迎えに行ってもらえるような制度です。当然ボランティアではできませんし、何かあったときのための保険の費用なども必要です。

橋本:アメリカやスイスであればベビーシッターに預けるのが普通だったり、中国であれば家族のサポートが手厚かったりしますが、日本だと難しいですもんね。大学がサポートしてくれるならありがたいですね。

飯島:他にも、産休・育休などのライフイベントで仕事から離れている時間が長い人ほどモチベーションが低下するというデータがあるので、休んでいる間にもオンラインでカンファレンスに参加できる仕組みを整えたり、SNSで最近の論文の情報を得られる仕組みなどを計画しています。

橋本:そういう情報に1日1時間触れるだけでも全然違いそうです。この事業のいい一例になりそうですね。

最後に緑樹会員に何かメッセージをお願いしますか。

飯島:ダイバーシティの取り組みを進めないと10年や20年後、半数近くが女性となり診療が成り立たなくなる可能性すらあります。ぜひファミリーサポート制度への登録などご支援をいただければと思います。多くの方々が個人のみならず国の予算も使って医師になっていますので、何らかの形で社会に還元し、本学の後輩達のためにも引き続きご支援をお願い致します。今年からは本学名誉教授である筒井ひろ子先生と熊本大学名誉教授の佐々木裕先生にも研究支援メンバーに加わって頂き、私たちダイバーシティ推進室メンバー全員で最大限の努力をしていきたいと思っています。

橋本:ありがとうございました。



ダイバーシティ推進室メンバー



近況

新堀 曜子(平成13年卒業)
福田病院 LDR副病棟医長・4F外来医長

私が兵庫医科大学を卒業してから21年が経ちました。私は、大学卒業後、兵庫医科大学病院産婦人科に入局しました。大学で2年間研修した後、鹿児島市立病院産婦人科で2年間周産期を勉強し、5年目から、実家である熊本の福田病院に就職しました。私の父も産婦人科の医師で、6歳離れる姉と4歳離れる兄がおり、姉は小児科医、兄は私と同じ産婦人科医で、家族全員で福田病院に勤務しています。

福田病院は、熊本城の見える熊本市内にあり、明治40年に開院し、今年で114年目になる産婦人科の病院です。病床数は161床で、一般病床が96床(うちMFICU6床)、新生児病床が65床(うちNICU24床)あり、地域周産期母子医療センターとして、妊娠25週以降のハイリスクの妊婦と赤ちゃんを24時間体制で受け入れています。診療科は、産婦人科、小児科、麻酔科、乳腺外科、肛門科で産婦人科医19名、小児科医10名、麻酔科医3名、乳腺外科・肛門科医1名の計33名の医師が勤務しています。2020年度の分娩数は、3495名で、そのうち69.8%が経膈分娩、30.2%が帝王切開でした。

私は、福田病院に勤めて2年目に長男を出産しました。福田病院には、約500名の職員が勤務しており、そのほとんどが女性です。そのため、出産後、子育てをしながら仕事を続けるお母さんがたくさんいます。今は、少子化といわれる割には、子供を預けるところが少ないといわれています。福田病院には、40年程前からコアアラ保育園という託児所があり、私の子供たちも生後6ヶ月から保育園に預けることができたので、出産後半年で仕事に復帰しました。以前は、園児が20名ほどの小さな託児所という感じでしたが、今では病児保育もあり、子育てする女性にとってはとても働きやすい環境が整っている病院です。病院の敷地内にあるため、まだ授乳が必要な時期に預けた私は、外来勤務や手術の間によく授乳に呼ばれ、医局で授乳をしていました。子供たちは、家にいるよりも保育園にいる時間が長く、はじめて立った瞬間や、はじめて歩いた瞬間は、私よりも先に保育園の先生が見ていて、「連絡ノート」で知らされました。そんな子供たちも、今年で中学2年生と小学6年生になり、あまり手がかからなくなりました。

福田病院では、昨年の4月に、熊本大学病院に産科麻酔学寄附講座を設立し、無痛分娩を始めました。日本では、欧米に比べあまり普及していない無痛分娩ですが、出産に占める割

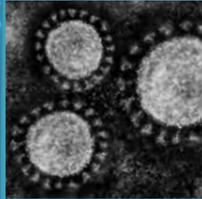
女性医師として最前線で働く

新堀先生にご寄稿いただきました

合は近年増加しており、無痛分娩という出産方法が少しずつ認知されています。日本で無痛分娩の割合が低い理由としては、麻酔科医不足にあると言われてます。専門の医師がないため医療事故が起こる可能性があり、無痛分娩を提供する施設が欧米に比べ少ないことも原因の1つです。福田病院では、患者さんの希望に応え、なおかつ安全に行えるよう、麻酔科医を24時間体制にし無痛分娩に取り組んでいます。この24時間体制に、私も責任者として参加しており、去年4月には、自宅を病院内に移し勤務しています。病院内に居るため、無痛分娩以外にも緊急手術や時間外の診療によく呼ばれます。もちろん、呼ばれる時間はさまざまで、長男のお弁当を作っている時間や、子供たちの習い事の送迎の時間など毎日忙しく仕事と子育てをしています。子供たちは、私の仕事のせいで食事を子供だけで食べたり、時にはすごく遅い時間になったりしてかわいそうだなと思いますが、男の子2人なので、意外とけろっとして苦痛に思っていないようです。もちろん、この勤務状態の中、私1人で子育てはできないので、両親や友人、時には病院の職員に手伝ってもらい毎日充実した日々を過ごしています。子供たちは、2人とも野球をやっているんで、休日時間があるときは、野球の応援に行きます。

子供たちが小さい頃は、仕事と育児の両立がとても苦痛でしたが、あの時、頑張って仕事を続けたからこそ、今、一人でも多くの妊婦さんやその家族の笑顔を見ることが出来ているのだと思います。仕事と子育ての両立はつらいこともありますが、家族や病院の仲間の協力を得てこれからも精進していきたいと思っています。





特集

COVID-19 対応の最前線

初めて確認されてから1年以上が経った今も世界中で猛威をふるっているCOVID-19。

この未曾有のウイルス対し、臨床の最前線に立って対応している兵庫医科大学OBがいます。

現場で戦う先生の声をご紹介します。

当院でのCOVID-19への取り組み

佐竹 真 (平成7年卒業)
社団法人見成会 見成会クリニック 院長



緑樹会会員の先生方、はじめまして、H7年卒業の佐竹です。H7年に旧第一外科に入局、大学院、米国UCLA留学、肝胆膵外科での大学病院勤務等を経て、現在弟が経営する見成会クリニックで院長をしております。当院は宝塚市光明町(小林駅と逆瀬川駅の間)にございます。

COVID-19の流行開始より約一年半になりますが、当院では早期より発熱患者対応を行うこととし、自院で抗

原検査、PCRを行う体制を整備、感染者の早期発見と治療介入が出来るようにしております。ワクチン個別接種は、1週間で150人以上に対応しております。現在、宝塚市は集団接種のみの対応となりましたが、積極的に集団接種業務に出務しております。

宝塚市は大都市との往来が多い地域で、10万人当たりの感染者が約35人以上のStage IVの状況で、20代～30代の酒席等の飛沫での感染者が、

家庭内での感染を広げているケースが多く見受けられます。可能な限り早期に感染者を拾い上げ、早期治療介入のお手伝いをすることが重要と考え、保健所からステロイドの投与を依頼にも可能な限り対応しております。更には若い世代の患者に感染予防対策やワクチンの重要性につき啓蒙するのも重要な任務と考え、説明に務めております。

防護服等をつけての診療は身体的にも精神的にも負担になることもございますが、「止まない雨はない」をモットーに職員一同微力ながら努力を続けたいと考えております。

緑樹会会員の諸先生方には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

コロナワクチン接種問診への取り組み

上杉 篤志 (平成17年卒業)
医療法人八甲会 潮田クリニック



日々コロナウイルス感染症に従事されている先生方に感謝申し上げますとともに敬意を表します。

私は平成17年に卒業、奈良医大で研修を終え総合診療科に入局し、現在はクリニックで勤めております。

連日報道される新規患者数を見ては、都会の先生方のご苦勞は想像に絶しがたい、逆に数例しか診ていない自分は...と肩身の狭い思いです。

少しでもコロナ関連事業で世の役に

立ちたいと考え、療養ホテルへの出向やワクチン問診業務に参加しております。コロナ渦で旅行しにくい状況ではありますが、休日返上ワクチン接種を口実に!?日本全国とまで言いませんが奈良県の他にも北は北海道から東京、大阪、兵庫、広島、香川などで住民集団接種、大学や企業などの職域接種などに協力させていただいております。各地で薬手帳を拝見し問診をしていますと抗凝固剤などを内服している

方が極端に少ない地域があったり、色々な特色があるので、調査してみても興味深い内容であると感じました。また、最近になり若者の接種が多くなったことも重なってワクチンに対する不安を訴えられる方が多く、また迷走神経反射を起こし業務が滞るケースも出現するため問診する上でも工夫が必要だと感じています。

今後もコロナウイルス沈静化に向けて微力ではありますが自身で出来る範囲で頑張っていきたいと思っております。

緑樹会会員の皆様もご無理ならず御自愛頂けましたら幸いです。

兵庫医科大学救命救急センター COVID-19との500日

宮脇 淳志 (平成3年卒業)
兵庫医科大学 救急・災害医学 講師



当センターは2020年4月よりCOVID-19の患者のうち特に重症例について受け入れてきました。最初は救急集中治療室(EICU)の奥にある個室に収容し、移動式の衝立をおいてゾーニングし、救命センターの中で普段、集中治療や内因疾患を治療しているメンバーとレジデント2名が中心になって治療を開始しました。最初は高齢者、基礎疾患がある人が重症化し、搬送されてきました。この疾患は重症化した場合、病状は日々変化し突然悪化することが多く、毎朝カンファレンスで呈示される

病態の急激な増悪には、何度も驚かされました。そしてウイルスが消失した後は極端に悪化した呼吸機能と経過中に発生した合併症の治療に追われました。当然、治療の甲斐なく亡くなられる方もおり、病状が悪化していても家族の方の面会もままならないような状態でした。そしてパンデミックが長期化し感染者数の増加と共に徐々に患者年齢が若年化していきました。EICUはCOVID-19の専門病棟とされ、最大12名までの重症者を収容出来るように整備され、治療のガイドラインなども整備されてきま

したが、県内のCOVID-19の対応病床が枯渇してきました。そのため阪神地区以外の患者も受け入れたので、まさに国難に対して総力戦となりましたが、新人のレジデント6名も加わり何とか第5波まで乗り切りました。しかも、この間も当センターは三次救命センターなので地域医療の維持のため通常の救急要請も可能な限り応需せねばならず、COVID-19以外の外傷患者や重症内因患者もマンパワーの許す限り受け入れてきました。応需件数はパンデミック前に比べれば減少しましたが、本来の三次救急の役割は、何とか果たせたと考えています。最初に述べた通り、重症化症例に限定した治療経験だったので、感染者全体の5～10%に起こる本当の怖さを目の当たりにし、今後も同様な感染症に対する防疫も含めた医療体制を考える必要性を痛感しました。

レジデントの先生方も奮闘中!

新型コロナウイルス感染拡大による未曾有の脅威の只中において本学救急科レジデントの先生方も救命医として現場で奮闘しています。その様子をご紹介します。



救急科に入局して

清水 美沙 (平成31年卒業) 兵庫医科大学 救急科 レジデント

初期研修中、救急科で研修を行った時に幅広い状況に対応している現場と、そのために幅広い知識を使って治療にあたっている先生方を見て、今まで考えたことのなかった救急科にも興味を持ち進路の選択肢の一つとなりました。最終的には救急科を選択しましたが、その頃にはこんなにCOVID-19の脅威が続いているとは正直思っていませんでした。今年4月、後期研修医として救急科に入局し救急医としての道がスタートすると、慣れないことやわからないことがたくさんある中でCOVID-19患者の治療は、日々状態が変化していくのに対応していかなければならず、私には大変なことでした。



しかし、毎日出くわす全ての状況が勉強となり、今は出来ることも知識も少しずつ増えてきています。また、同期にも恵まれて日々切磋琢磨しながら、少しでも早く上級医の先生にも追いつけるように過ごしています。今後、COVID-19の流行が終わっても今回のような感染症の流行がいつ起こるかわかりません。まだまだ始まったばかりですが、毎日の経験をこれからの自分の医者人生に活かしていきたいです。

コロナ禍で救急医を目指すということ

新海 貴士 (平成31年卒業) 兵庫医科大学 救急科 レジデント

私は高校生の頃から救急医に憧れていました。父が眼科医ということもあり、最後まで進路に悩みましたが、Generalistになりたい気持ちが強かったためこの道に進むことにしました。いざ、レジデントになると研修医時代の救急とは全く違う状況になっていて、ICUはコロナ患者専用の病棟になっていました。市中肺炎などのcommon diseaseの経験も多く積めていないのにも関わらず、コロナ患者の人工呼吸器やECMOなどのシビアな管理を求められ、私たちレジデントでは太刀打ちできない場面も多いです。そんな中で非常に厳しい状態から徐々に改善し、リハビリに励み歩けるようになっていく患



者を見ていると、大きく貢献できたわけではないですが、とてもやりがいを感じます。いまだコロナの収束の見通しは立たず、感染者が増えれば重症患者が搬送される状況です。その中で、私たちレジデントにできることは、コロナ終息を願いながら、日々学び、目の前の患者を治療することです。憧れていた救急医になるため、これからも精進していきたいです。

憧れた救急医となるために

砂川 卓哉 (平成31年卒業) 兵庫医科大学 救急科 レジデント

研修医1年目の3月、兵庫医科大学病院救命センターでの研修期間中に、初めて新型コロナウイルス感染症の方が運ばれてきました。その時の現場の雰囲気、従来の感染症の時とは違った緊張感で包まれていたことは今でもはっきりと覚えています。普段はどのような症例に対しても毅然として対応されていた先生方が、熱い議論を交わしながら手探りで治療法を考えていく姿に、そして初めのうちは確立した治療法もなく、厳しい戦いが続いている中で、それでも患者様のために精一杯戦っている姿に、私の理想とする医師像をみました。



りませんでした。次々にコロナの患者様が運ばれてくる中で、外傷やその他の感染症の方も運ばれてきて、軽いパニック状態になっていたと思います。感染者数が落ち着いてきてきた頃、それまでの時間が学びに溢れていた事に気づき、改めて自分を高めていけるような気がしています。これからも大変な毎日が続く覚悟はありますが、憧れた背中に近づけるよう精進していこうと思います。

その姿に憧れて救急医となりましたが、現実はその甘くはあ

救命救急科を専攻して

高橋 知佳子 (平成31年卒業) 兵庫医科大学 救急科 レジデント

今回はCOVID-19の治療の最前線に携わる一員としてこのような機会をいただき光栄です。

まず救急科を専攻した経緯ですが、研修を経て知識の少なさ、診療における無力さを感じる日々でした。地域研修で不安なく自分で対応がしたいと感じたことがきっかけで、まずできる診療範囲を広くし急変時に対応できる医師になりたいと考え始めました。重症度の高い診療を経験する、その後サブスペシャルの分野も視野に入れるのを目標とし、一番の近道として救命救急科を選びました。

現在勤務の1つにCOVID-19の対応があります。急変や状



態悪化、呼吸器管理をする中で判断や治療内容の選択、実際の治療成績など様々な壁を感じています。未熟な私でも勤務できている状況に、まず上級医に感謝しかないです。普段からレクチャーや救急搬送時シミュレーションなど教養にも力を入れて下さり、常に上級医が相談に乗って下さるという恵まれた環境です。信頼して治療を任せてくれる患者さん、ご家族さん、共に働くスタッフのためにも、引き続き全力を尽くして参ります。

コロナ禍での救急診療

西村 壮太 (平成31年卒業) 兵庫医科大学 救急科 レジデント

まず、このような機会をいただき感謝しております。初めに、私が救急科に進もうと思った理由としては、誤解を恐れずにかかせていただくと純粋に楽しいと感じたからです。初期研修医の際、5ヶ月間救急救命センターにて研修させていただきましたが、その中で多くの経験をさせていただきました。当院に搬送されてくる患者様は非常に重症な方が多く、中には救命が困難な方も少なからずおられます。その中で、上級医の先生方の奮闘もあり救命することができ、自分の足で歩いて退院する事ができた患者様を見て、自分は何もできていませんがすごく嬉しく感じました。また、それと同時に自分も人を救い、



一人でも多くの患者様と患者の家族に笑顔になってほしいと思うようになりました。それが救急科に進んだ理由です。そして今、COVID-19が大流行しています。正直なところまだ実力不足でかなり難しいところが多くあり非常に厳しい状況だと感じております。

また、救命できないことへの無力さを日々痛感しています。しかし、患者の悲しむ顔は見たくありません。救急科へ入局へ決めたときの気持ちを再び強く心に思い、一人でも患者多くの患者の笑顔を見るために日々医療と向き合っていきたいと思えます。

コロナ禍における苦悩と喜び

野間 光貴 (平成31年卒業) 兵庫医科大学 救急科 レジデント

私は2020年1月から3か月間、救急科で初期研修をしました。武漢市で未知のウイルスが蔓延しているというニュースが流れ始めた頃です。3月には、当院にも最初のCOVID-19重症患者さんが搬送されました。現在のように飛沫感染・接触感染という感染経路は明らかではなく、ガイドラインも何一つ定まっていない状況でした。直接患者さんと触れ合うのは上級医、専攻医の先生方で、研修医の私は病室の外から指示入れ等のサポートをする形で関わりました。

専攻医になった今年の4月、すぐに第4波を迎え、重症病床は満床が続く中、今度は自分が病室内で直接患者さんの診療



にあたる立場になりました。日々病状が変動する重症患者さんを前に奮闘しておりますが、結果に結びつかないことが多々あり、苦悩する毎日です。その中でも患者さんを救命できた時、それをご家族に報告できた時は何ものにも代えがたい喜びを感じます。

今後も続くであろうコロナ禍。息抜きもできない厳しい状況下ではありますが、患者さんや御家族の笑顔を見るために、コロナ診療により一層尽力いたします。

開学50周年記念

森村賞 受賞者の

今

開学50周年を迎えたことを記念し、過去に森村奨学会表彰(森村賞)を受賞した先生方に、現在の近況や在学中の思い出、母校へのメッセージをお寄せいただきました。

平成9年度～令和2年度の森村賞受賞者の中で、この企画に対しご寄稿いただいた方のみ掲載しております。(それ以外の方はお名前のみ記載)



櫻井 淳

平成13年度

1 消化器内科 2 大阪明病院 消化器内科 3 ゴルフ部に所属し、合宿や試合に同期や先輩、後輩と一緒にきました。夏の合宿ではゴルフバックを担いで2ラウンド回ってヘトヘトになっていましたが、その後はみんなで温泉に入って食事をして、花火や話をしたりと楽しかったです。同期にも恵まれ、西日本医歯薬本戦で団体戦第2位になった事が特に思い出です。4 兵庫医科大学は臨床、研究に成果を納め年々発展している事を卒業生としうれしく思います。現在はコロナ禍で大変な状況ではありますが、開学50周年を迎え今後のより一層の発展を期待しております。



亀井 郁恵 (福田)

平成28年度

1 呼吸器内科 2 大阪医科薬科大学病院 呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科 3 軽音楽部に入学して初めてベースという楽器に触れ、沢山の先輩や後輩とバンドを組ませていただきました。卒業後も続けられる趣味を見つけることができ、本当に良かったと思っています。また、卒業旅行で友人と行ったオーストラリアも思い出に残っています。ワラビーに餌付けした日の夕食にワラビーの肉が出てきて複雑な気持ちになった事や、グリーン島の海でウミガメに出会った事が印象的でした。4 兵庫医大卒業生は、患者に優しく寄り添う先生が多いように思います。今後も益々のご発展をお祈り申し上げます。



山近 紗知子 (笹瀬)

平成16年度

1 小児科 2 卒後、阪大病院の初期研修プログラム終了し、市立豊中病院、阪大病院で後期研修を行いました。結婚し、会社員の夫の2~3年毎の転勤に伴い、関東~東海地方でその都度勤務先を見つけ、2回の妊娠出産による離職も経て、長男の入学を機に東京都に定住することになりました。次男の入園に伴い復職をと思っていたらコロナ禍となり、現在は健診やワクチン業務をスポットで行い、臨床から離れ過ぎないようにと踏みとどまっています。女性として、子育てと仕事の両方の全力投球を目指し思い悩む日々です。3 1年生の時にパドミン

トン部を創部しました(初年度は同好会でした)。徐々に一緒に活動してくれる同級生、先輩、後輩たちも増え、それに噂を聞きつけ練習に参加してくださる兵庫医大病院の救急、耳鼻科、歯科口腔外科等の先生方にも恵まれ、今や部員数も1,2を争うマンモスクラブになりました。入学して初めての1年生時の西医学と、卒業前最後の6年生時の近畿東海大会で優勝できたのはよい思い出です。4 私の両親が兵庫医大2期生で、私自身、比較的初代の2代目卒業生かと思っています。新しい大学だからなのもあるかもしれませんが、兵庫医大は明るく自由な校風で、とても楽しい6年間を過ごせました。会報を見ていると、カリキュラム等もどんどん進化しているように思います。これからも、卒業生が母校を誇れる大学であり続けて欲しいと思います。

Q.皆さんに伺いました

- 1 専門領域
- 2 現況
- 3 在学中の思い出
- 4 母校に一言

森村賞表彰者一覧

年 度	氏 名	氏 名
昭和52年度	田村 和朗	森村 与喜子
昭和53年度	藤盛 好啓	安積 和代
昭和54年度	北井 公二	中田 秀治
昭和55年度	松森 良信	大西 佳子
昭和56年度	林 公子	村尾 倫代
昭和57年度	井宮 雅宏	宇治橋 俊典
昭和58年度	城 泰子	鶴田 真理
昭和59年度	今西 宏安	森 美也子
昭和60年度	池上 昇司	島 伸子
昭和61年度	尾野 典子	山本 かおり
昭和62年度	山村 光弘	松岡 洋子
昭和63年度	西尾 聖	藤林 麻里
平成元年度	中島 誠	有井 融
平成2年度	黒田 達実	伊藤 真紀
平成3年度	宮本 哲也	眞城 美穂
平成4年度	細田 伸子	森本 真史
平成5年度	福田 勝美	石 亦宏
平成6年度	村田 雄司	喜久里 正躬
平成7年度	矢野 隆子	都築 建三
平成8年度	名波 正義	内藤 真紀
平成9年度	橋本 典子	藤原 俊介
平成10年度	芝 加奈子	田邊 仁志
平成11年度	中村 浩彰	有村 佳修
平成12年度	細谷 友雅	花咲 博子
平成13年度	櫻井 淳	渡辺 佳菜子
平成14年度	布浦 誓子	新光 阿以子
平成15年度	中田 華子	塩澤 良一
平成16年度	小川 覚	笹瀬 紗知子
平成17年度	橋本 昌樹	藤川 佳子
平成18年度	北尾 章人	雪辰 依子
平成19年度	神頭 聡	井上 佳代
平成20年度	勝浦 堯之	金井 美和
平成21年度	井上 賢治	吉水 祥一
平成22年度	河中 真紀	山川 皓
平成23年度	坂本 明香	川知 祐介
平成24年度	松尾 祥平	矢島 悠太
平成25年度	槌家 聡子	松井 美樹
平成26年度	森川 彰貴	吉積 一樹
平成27年度	松岡 未奈巳	松本 侑香
平成28年度	坂井 博明	小野 雅敬
平成29年度	福田 郁恵	山田 薫
平成30年度	藤川 亜里紗	西村 壮太
令和元年度	中川 拓也	新宅 由佳
令和2年度	浅野 裕矢	桑原 啓太
	山分 祥一	

(昭和52年度～令和2年度)

【お詫び】会報78号に掲載しました森村賞表彰者一覧に一部誤りがありました。改めて正しいものを掲載するとともに、深くお詫び申し上げます。



細谷 友雅

平成12年度

1 眼科(角結膜、ドライアイ) 2 兵庫医科大学眼科学講座 講師 3 室内楽団と医科学学生オーケストラに所属してフルートを吹いていました。学内の定期演奏会だけでなく、夏休み、春休みには全国から集まった医学生と一緒に合宿をして、最終日に演奏会を行うという活動を通し、かけがえのない友人を得ました。サントリーホールやシンフォニーホールの舞台上に立てたのは何よりの思い出です。学生にとっての一大イベントは定期試験ですが、団結力の強い学年でした。問題を1人1問覚えて本試験の問題を復元し、模範回答集をつけて再試験に備える、なんてことをよくやっていました。このお手伝いが私自身の復習にもなっていたので、賞をいただいたのは同期の皆のおかげと思っています。4 他大学出身の先生や患者さんに「兵庫医大出身の先生は患者さんに親身に優しい」とご評価いただけることも多く、卒業生の一人として誇らしく感じます。医学が進歩し、学生さんも年々勉強が大変になっていっていると感じますが、他人の痛みを想像できる人間味のある医師を育てる教育、校風を続けていただきたいと思います。



中川 拓也

平成30年度

1 糖尿病・内分泌 2 兵庫医科大学病院 糖尿病・内分泌・免疫内科 後期レジデント 3 サッカー部に所属していた第4学年次(2016年)に西医学準優勝・全医学優勝を経験しました。4 「Empower the people」を実践する医療人の育成を期待しております。



小川 覚

平成15年度

1 麻酔、緩和医療、ペインクリニック 2 京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学 講師 卒後、市中病院にて救急医療や麻酔の研修を行いました。米国留学から帰国するタイミングで現在施設にお世話になり、麻酔、緩和医療、ペインクリニックの診療の傍らに血栓止血領域の研究に従事しています。八面六臂の活躍とはいきませんが、日々を楽しく過ごさせて頂いています。3 やしろ会館や医聖祭の打ち上げで親交を深めたことが懐かしく思い出されますが、同級生



橋本 昌樹

平成16年度

1 呼吸器外科全般(肺癌、悪性胸膜中皮腫、ロボット支援手術など何でも) 2 兵庫医科大学呼吸器外科 3 とりあえず再試にかからないことだけを目標にしていた結果、森村賞をいただきました(笑)。学生時代は準硬式野球部に所属していましたが、藤田先生をはじめ皆様にいろんな意味で良い経験をさせてもらいました。今となっては、その経験が医者人生に大きくプラスに働いています。また5年生時に、阪神優勝の瞬間をみんなと甲子園で見ることができましたが、あの雰囲気は忘れられません。4 兵庫医大は、地方の一私立医学部ではありますが、秀でた分野も数多く、もっと自信をもっていい立派な大学です。50周年を機にさらに存在感のある大学になることを期待します。



塩澤 良一

平成15年度

1 内科 2 塩沢医院(長野県諏訪市) 当初は2年程度で収束するのではないかと楽観視していましたが、各国からウイルスを東京にあつめて混ぜ合わせ、夏休み・帰省によって全国にばらまきというイベントの影響で、地方都市の診療所でもCOVID-19患者がみられるようになりました。通常の診療をしながら、発熱外来、在宅医療、健診、ワクチン接種と多忙ですが、感染症ともたたかっています。3 鳴尾駅近くの喫茶店で夜遅くまで友達とよくお茶していました。4 兵庫医大の先生方のご活躍を拝見する機会も多くうれしく思います。兵庫医大の益々の発展を願っております。

平成29年度

藤川 亜里紗

1 腎臓内科、血液浄化療法 2 甲南医療センター 腎臓内科・血液浄化センターに勤務しています。周辺に2次救急を受け入れている医療機関が少なく救急外来など積極的に行われており、また新型コロナウイルス感染症での入院例もあり、地域に密着した病院です。3 当時軽音楽部に所属していましたが、高学年になり顔の整った男子を募ってジャニーズをしたのがとても楽しかったです。4 後輩のみなさんへ、新専門医制度が始まり、将来の専門の選択に迷うときが必ず来ます。病院実習など臨床の先生方とお話する機会がある場合には、勉強の面だけではなく将来(入局)を見据えて接してみてください。きつとよい経験になると思います。幅の広い視野で、後悔のない選択をしてください。益々のご健闘をお祈りしております。



三浦 依子 (雪辰)

平成18年度

1 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2 子育て休暇中のため、無所属 兵庫医大で臨床研修を修了し、兵庫医大の耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局しました。入局2年目に大学院へ入学しました。はじめの8カ月間は大阪母子医療センターの耳鼻咽喉科で勤務し、その後病理学教室で基礎研究に従事し、鼻茸組織を用いた研究で博士号を取得しました。大学院卒業後は、大学の鼻副鼻腔疾患チームのスタッフとして手術を沢山学びました。その後県立淡路医療センターで2年間、NTT西日本大阪病院(現 第二大阪警察病院)で半年間勤務し出産のために退職しました。現在は2歳と1歳(1歳8ヶ月差)の2児の育児に専念しています。近い将来は、仕事と育児を両立させたいと思います。3 入学後すぐのクラブ勧誘イベントは、その頃はお酒OK、一泊お泊まりで開催されていました。小学校から高校まで女子校で育った18歳の私には、その夜の騒音が刺激的過ぎて、楽し過ぎたのを今でも覚えています。卒業30期は、入学当初から各々個性が強い学年ですが、とても仲が良いです。卒業してからより絆が強くなっていくように感じますし、とても会いたくなります。コロナ禍で延期になった同窓会が開催されるのが待ち遠しいです。4 阪神高速を通ると、真新しい母校がそびえ立っています。年々目に見えて大きく発展している母校を見ると、安心感と誇りを感じます。今後も卒業生として、微力ながらも母校のさらなる発展のため尽力いたします。



藤原 俊介

平成9年度

1ペインクリニック、麻酔科、緩和ケア 2 在学中に全身管理や痛みに興味があり、卒業後、母校麻酔科に入局し、大学・関連病院での研修をしていました。途中、救急領域の勉強がしたくて、平成14年に大阪府三島救命救急センターに移る際に医局も大阪医科大学麻酔科に移ること(医局を離れることを許していただいた麻酔科の太城教授(当時)、引き受けていただいた大阪医大麻酔科南教授には深く感謝しております)になり、以後、大学院を経て、平成20年より同大学麻酔科にて助教、講師(医局長)として、ペインクリニック・緩和ケアを中心に研鑽を積み、平成30年11月より、大阪医科大学麻酔科医局出身の先生が開業されていた高槻市にあるペインクリニックを継承開業し、医療法人順専会白藤藤原診療所理事長として、現在に至ります。各種神経ブロックを中心とした疼痛治療から一般内科まで、地域のかかりつけ医として、患者さんの種々の疾患、健康の悩みに相談に乗れるクリニックを目指して、日々精進しております。 3 在学中の思い出は色々あるのですが、部活はラグビー部に所属しておりました。4年時には主将を務めさせていただきました。それまで、一度も組織をマネジメントする経験がなかったため、自分に務まるのか不安でした。また個性の強いラグビー部の面々を引っ張っていけるのか…と悩むことが多かったのですが、逆に先輩や同期、後輩に助けてもらいながらの楽しい経験でした。この経験が、医局長や現在の院長としてのマネジメントの基礎となっているのかな…と考えております。 4 幅広く活躍できる人材の育成を期待しております。



有村 佳修

平成11年度

1麻酔科 2箕面市立病院 3 友人や先輩、後輩達と楽しく過ごした6年間でした。「出席してれば大丈夫」という合言葉を信じ、全く授業を聞かずに毎日を過ごしていました。バスケット部に所属し、当時は体育館がなかったので、いろいろな場所を借りて練習をしていました。私の世代は強くはありませんでしたが、練習やトレーニングを重ねて初めて勝つことができた時は、とても嬉しかったのを覚えています。今思い返すと、とても幸せな時間でした。 4 多くの同窓生が活躍しているのを耳にすると、非常に嬉しく思います。これからも、兵庫医大が大きく発展していくのを願っています。



飯沼 侑香

平成27年度

1総合診療科 2 岐阜大学医学部附属病院総合内科 卒業後は出身地である和歌山で初期研修を行い、その後、部活の先輩であった夫と結婚し、夫の地元、岐阜での勤務を始めました。兵庫医科大学卒業生である父の姿を追いかけ、地域に愛される町医者になるべく、総合診療科を専攻しました。今年度、専門医試験を受験する予定です。また、10月に1歳になる息子は日々の成長が目まぐるしく、その姿を見逃すまいと仕事と育児に奔走中です。 3 まず思い出されるのは競技スキー部での経験です。



小濱 華子

平成14年度

1麻酔科 2 西宮協立脳神経外科病院においても整形外科と脳外科の手術麻酔をしています。オペ件数も多く、充実した毎日を楽しんでいます。 3 軽音楽部で学外・学内ライブと音楽漬けの日々でした。 4 新しくなった校舎で講義や実習、試験と休む間もない缶詰状態の学生生活と思いますが、建学の精神を常に心に留め、医学・医療の世界へはばたいてください!ますますのご活躍を祈念しております。



勝浦 堯之

平成19年度

1放射線科 2 2年前より入局以来お世話になっていた兵庫医大を出て西宮協立脳神経外科病院の放射線科医長とし勤務しています。 3 ゴルフ部での思い出が一番印象に残っています。夏や冬の合宿ではゴルフバックを担ぎながらラウンドし足の皮がめくれるまで夢中になって練習しました。試合では試合しか味わえない緊張感がありいい経験ができました。1年の時に医歯薬新人戦で団体優勝、6年の時に西医体で団体入賞でき、今でも忘れられない思い出です。 4 私が在学中もとても教育、国試対策に力を入れてくれましたが今はさらにパワーアップしていると思います。学生の皆さんは大変だと思いますがついていけば必ず結果はでると思います。ここ数年で学生棟等も新たにできて病院の建て替えも進み、大学、病院共に日々進化している兵庫医大ですが、これからも益々の発展を期待しています。

部員と朝まで飲み明かしたり、遊びに行くことも多く、長野合宿では朝早くから極寒でのトレーニングで大変なこともありましたが、今となってはどれもよい思い出で間違いなく私の糧になっています。そして、5年次の交換留学で行かせていただいたクオアチアも忘れられません。医療技術のみならず、ワークライフバランスや考え方を学び、視野を広げることができました。また、毎年長期休みには友人と旅行へ行き、休みが近づくと旅行の計画を立てるのが非常に楽しかったのをつい最近のように覚えていてます。 4 兵庫医大でなければこんなに楽しい学生生活は送ることができなかつたらうと思っています。ますますの発展を心より願っております。



渡邊 聡子

平成24年度

1糖尿病内科 2 卒後結婚を機に岡山へ転居し、国立病院機構岡山医療センターで初期研修、後期研修を5年経た後、現在の岡山済生会総合病院 内科・糖尿病センターで勤務しております。その間、出産・育児などでブランクもありましたが、何とか仕事を継続しています。 3 硬式テニス部に所属しておりましたが、そこで出会った友人達と過ごした時間が最も思い出深いものとなっています。体育会系とは知らずに入部したこともあり、厳しい練習に最初は驚いたものですが、友人、先輩後輩とともに練習に励み、合宿、大会と目標に向けて一生懸命努力した経験は得られがたいものでした。卒後も結婚式などで集まる機会があると、学生時代に戻ったようでとても楽しい時間です。 4 母校である兵庫医科大学の発展と高い評価をニュース等で拝見し、大変誇らしく感じております。卒業生としてその名に恥じぬよう今後も頑張ってまいります。



桑原 啓太

令和2年度

1研修医一年目 2 独立行政法人 関門医療センター 3 友達と過ごした6年間、主将を務めた西医体、国試前日の38.5度の発熱。 4 かけがえのない友人と最高の学生生活を送ってください!



松井 美樹

平成25年度

1小児科(先天代謝、新生児) 2 島根大学小児科(兵庫医科大学小児科より、先天代謝異常症の研究のため、島根大学小児科に国内留学中です。現在、隠岐の島で原稿を書いています。) 3 在学中は卓球部と医学研究会に所属していました。6年間の勉強はそれはもう本当に大変でしたが、最終的に卓球部の同期達と一緒に卒業し、医師としてスタートを切れた時は何よりも嬉しかったです。医学研究会では、解剖学の前田先生指導のもと黙々とネッター片手に標本づくりをしたことが一番印象に残っています(授業でも使ってくださいました)。また、在学中には嬉しいことばかりではなく、辛い思いも経験しました。当時、多くの同級生や先生方に助けられました。森村賞を受賞できたのも、周囲の支えがあったからであり、一人で得たものではありません。本当に感謝しています。 4 8年ぶりに大学に戻ってきて、学び舎の綺麗さに驚きました(そして迷子になりました)。まだまだ若輩者ではありますが、今後は後輩たちに小児科の魅力を伝えていくと共に、母校の発展に貢献していきたいと思ひます。



笠原 誓子

平成13年度

1放射線科 2 大津赤十字病院放射線科 3 少なくとも4年生までは勉強よりも部活が楽しくて、のめり込んでいたように思います。先輩方のご指導の元、のびのびと練習できる環境にあり、同輩後輩にも恵まれ、二校・四校対抗にはじまり、全医体やOB戦も楽しく過ごさせていただきました。夏になれば「しあわせの村アーチェリー場(通称ひよどり)」まで愛車を出してくださった皆様、本当にありがとうございました。あのポロポロの、夏はうだるような暑さだったクラブハウス(冬は寒い)も、なかなか夏を満喫できない今となれば良い思い出です。学生会活動もよい経験となりました。5、6年生になると、そろそろ勉強をと思ったか思っていないかは忘れましたが、大学から学習室だけでなく、一人一人に学習机を用意していただき(!)、一緒に勉強する者同士、切磋琢磨、勉強に励むことができました。最後になりましたが、通常業務・診療があるにもかかわらず、ポリクリや授業をしてくださった多くの先生方に感謝申し上げます。 4 母校出身の先生方の研究や書籍、講演を拝見・拝聴するにつけ、勇気をいただいております。COVID-19感染症の対応で大変と存じますが、地域の中核病院であり続け、益々の発展を心より願っております。



河中 真紀

平成21年度

1消化器内科 2 兵庫医科大学病院消化管内科医局所属、一般財団法人住友病院消化器内科勤務 3 6年生の自習室 4 少しでも多くの皆さんが消化器内科に興味を持っていただけるよう日々精進します。



佐竹 佳菜子

平成13年度

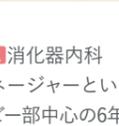
1麻酔科 2 三菱神戸病院 3 硬式テニス部(2年次まで)・日本医科学生オーケストラへの参加、留学、旅行など今も続く多くの友人と楽しい時間を過ごすことが出来ました。 4 他病院でポリクリ生や初期研修医の先生とご一緒になる機会がありますが、私の学生時代より「優しい人柄」だけではなく「質の高い学び」を受けてこられている方が多く、兵庫医科大学の教育の向上を実感しております。益々の発展を心より願っております。



小野 雅敬

平成28年度

1総合内科(目標) 2 兵庫県立淡路医療センター循環器内科に所属。内科専攻医。日本プライマリ・ケア連合学会 専門医部会若手医師部門 病院総合医チームに参加させていただいています。 3 試験前に(友人が早朝より並んで勝ち取った)チュートリアル(今もあるのか?)に集まって(混ぜてもらい)勉強していたこと、昼食の「うどんや」「なるみ」「ようこそ」は思い出深いです。 4 兵庫医科大学の益々のご発展をご祈念申し上げます。



石本 明香

平成22年度

1消化器内科 2 サニーピアクリニック 3 マネージャーという立場ではありませんでしたが、ラグビー部中心の6年間でした!日々夏の神鍋で過ごす日々が長くなり(勝ち進むと日程が延びるので)、ついに5年次の西工大ではベスト4で最終日まで残ることができました。試合中の緊張感や、感動と悔しさと涙など、今思い出しても胸が熱くなります。また在学時の繋がりはもちろん、現役時代は関わりのなかった先輩方や、さらには他学のラグビー部出身の先生方とも年代を問わずラグビーをきっかけに縁が繋がることも多く、本当に貴重な財産となっています。試験前

- Q.皆さんに伺いました
1 専門領域
2 現況
3 在学中の思い出
4 母校に一言



松尾 祥平

平成23年度

1病理 2 宝塚市立病院 病理診断科 初期臨床研修を経て、兵庫医科大学・病院病理部へ入局、卒業4年目に宝塚市立病院に赴任し(当時は中央検査室所属)、途中非常勤の期間を挟み、宝塚市立病院での勤務が通算7年目になります。 3 卓球部への所属がきっかけで、卓球部の先輩である廣田誠一先生が主宰する病院病理部の門を叩くこととなりました。 4 宝塚市立病院の臨床科には緑樹会の先生方が多く勤務されており、日々大変お世話になっております。卒後あらためて母校の大切さを実感しております。



坂井 博明

平成27年度

1眼科 2 佐賀大学医学部附属病院眼科 3 勉学に関して卒業までの数々の試験の中には難易度の高いものもあり大変だったが、同級生みんなで力を合わせて乗り越えられた。ゴルフ部の素晴らしい先輩、同期、後輩に恵まれ、日々の練習や部飯に加え、合宿、大会など楽しい部活動生活を送れた。そして何より、気の置けない友人と過ごせた6年間の毎日が良い思い出です。 4 開学50周年おめでとうございます。兵庫医科大学の益々のご発展をご祈念申し上げます。



石本 明香

平成22年度

もプレーヤーが出席する限りは部活を休まないという、謎の信念のもと(笑)、限られた時間で勉強したことが、結果としてはよかったのかもしれない。ただ、学生時代の成績と"できる医師"とは全く相関しないことを実感していますので、今後も色んな形で努力が必要だと思っています。 4 兵医出身ならではの、人間味あふれる医療人が増え、伝統を少しずつ築きあげながら、いつまでも誇れる母校であってほしいと思います!

教授就任のご挨拶 — 兵庫医大と共に40年 —

夏秋 優 (昭和59年卒業) | 兵庫医科大学 皮膚科学 教授



2021年1月より皮膚科学の教授に就任いたしました夏秋 優です。私は1984年に兵庫医科大学を卒業しましたが、1989～1990年の米国サンフランシスコへの留学と1995～1997年の大阪府済生会吹田病院への出向を除けば、学生時代を含めて約40年間、兵庫医大と共に過ごしてきました。私が入学した頃は、当時ゲストハウス(旧森村邸)のそばにあったバラックのような卓球場で卓球に明け暮れていました。そこで体と心を鍛え、技術を磨き、学生時代最後の西医体の舞台では最高のパフォーマンスができました。そしてクラブ活動を通じて素晴らしい仲間と生涯の伴侶と出会えたので、最高の学生生活だったと思います。

卒業後は皮膚科に入局して故・相模成一郎教授のご指導を賜ると共に、当時、新家莊平先生が主宰されていた免疫学・医動物学教室にもお世話になり、マウス接触過敏反応の免疫学を学び、アレルギー学の基本を身につける礎となりました。その後、故・喜多野征夫教授、山西清文教授の元で温かいご指導を受けつつ自由に仕事をさせて頂いたことは、私にとって大きな経験になりました。また、私は子供の時から昆虫に興味を持っており、学生時代はもとより、皮膚科医になってからも昆虫を求めて全国各地を巡ってきました。そして学生の頃から継続している昆虫の生態観察の活動や、長年に渡って培ってきた写真撮影の技術は、私の専門分野である衛生害虫による皮膚疾患に関する研究を支える

大きな柱になっています。その成果のひとつとして2013年に「Dr.夏秋の臨床図鑑 虫と皮膚炎」という本を発刊することができました。このように、自分の望む好きな道をひたすら歩むことができたのは、良き師匠と仲間へ恵まれ、自由な空気と校風で私を育てていただいた兵庫医科大学のお陰と感謝しております。

2020年3月、教室の山西清文主任教授が定年退任されたため、しばらくは大学での自分の立場がどうなるのか未定でした。折しも、新型コロナウイルスの感染拡大のため緊急事態宣言が発出された時期であり、先行きが見えない中で、当面の教室責任者として診療・教育・研究などの舵取りをしつつ、自分に与えられた責務を精一杯やるしかない、との思いで日々過ごしていました。その後の経過はともかく、10月から皮膚科学講座には金澤伸雄主任教授の着任が決まりました。金澤先生とは、日本皮膚科学会の疥癬診療ガイドラインの委員会で一緒に仕事をさせて頂いていた旧知の仲であり、信頼できる素晴らしい先生であることはよく存じ上げておりましたので、安堵いたしました。そしてこの度、金澤先生のご推薦により教授(臨床教授)に就任させていただきました。この場をお借りして金澤先生、選考に携わって頂きました先生方、そして長年に渡りましてお世話になっております緑樹会の先生方に心より感謝申し上げます。

私は本学の卒業生として、本学をこよなく愛し、学生さんを大切にしながら長年に渡って、教育・診療・研究に尽

くしてきました。これからも、本学の発展のため、そして日本の皮膚科学の発展のために、精一杯、頑張ることが、私を育てていただいた本学への恩返しになると思います。今後とも、皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

瀬尾 徹 (昭和61年卒業) | 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科 教授



このたび令和3年4月1日、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院教授を拝命いたしました。私は、昭和61年兵庫医科大学卒業後、そのまま耳鼻咽喉科に入局し、米国Bowman Gray医大(現Wake Forest大学)に留学、兵庫医科大学准教授、近畿大学准教授を経て、平成31年4月より聖マリアンナ医科大学に准教授として着任しておりました。その際、緑樹会会報第76号(令和2年3月31日)にご挨拶を寄稿させていただきましたので、ご記憶の先生方も多いかと思えます。今回は、教授就任のご挨拶ということですが、同窓会誌ということでもあり少し昔話を書いてみたいと思います。

先日、新入医局員と話していると、なぜ教授になったのですかと聞かれました。私学では多くの卒業生は開業医となるので、教職にいる医師は不思議な存在なのでしょう。なぜかと問われると、名誉のため、お金のため、意地で、情性でなどいろいろな理由があるのかも知れません。しかし私が教職に残った理由は、学生教育に興味があったからです。それは、次のような出来事によります。

学生時代の私はできの悪い学生でした。特に城先生の解剖学口頭試問では一言も発することなく散々な結果でした。そこで城先生担当の神経解剖の講義では、一念発起し勉強をはじめ、最終的には98点でクリアすることができました。そこで学年末に城先生に挨拶に伺うこととしました。すると、教授室に私を招き入れるなり、次のようにおっしゃいました。今日君がなぜここに来た

か僕には理由がわかる。君は僕に文句をいいに来たのだろう。なぜ100点じゃないのかと。予想外の出来事に私は驚きました。しかし城先生はさらに続けます。君の答えは本当は満点だった。でも君に100点を与えなかったのには理由がある。今回君に100点をつけると君は天狗になってしまい、今後勉強しなくなるだろう。だから君の将来のために2点差し引いたんだ。君は、今後の人生でこの2点を取り返すために勉強を続けなさい。

この後、どのような会話をしたのかまったく記憶はありません。しかし、この数分間のやり取りは私の将来を変えることになりました。一つは、このような教育のできる人になりたいと思ったことです。医師になってから、何度か進路に迷うこともありましたが、その都度教職を続けることを選択しました。もう一つは、神経学に興味をもったということです。私は耳鼻咽喉科医になりましたが、なかでは比較的マイナーな分野である神経耳科学を専門とし、それは現在も続いています。

今回述べたできごとは昭和の時代のものであり、このようなことが今も通用するかは疑問です。しかし私は兵庫医大でよい教育を受けたのだと今でも感謝しています。他大学の先生方と話をしていると、兵庫医大は教育制度の充実した大学というアイデンティティーが確立しているようです。このことは現在はもちろん過去のすばらしい恩師、先輩方のおかげで確立されたものであることを、在学生や若い卒業生の方には知っていただき、さらに糧をつな

いでいってもらいたいと思います。横浜に赴任して2年が経過しました。しかし、教授就任以降はコロナ禍で思ような仕事はできていません。なんとか残りの2点を取り返そうと努力しています。引き続きよろしくご厚意申し上げます。

福井大学医学部 地域医療推進講座 教授就任のご挨拶

山村 修 (平成6年卒業) | 福井大学医学部 地域医療推進講座 教授



令和3年4月1日付で福井大学医学部地域医療推進講座教授を拝命しました、山村修と申します。この度は寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。懐かしい石蔵会長先生からお声がけをいただき、大変うれしく思っております。事務局の皆様には深く感謝申し上げます。

私は平成6年3月に兵庫医科大学医学部を卒業いたしました。すぐに地元に戻り、福井県立病院でローテイト研修医として働き始めました。当時、同院の救急部には、「研修医当直御法度(赤本)」の執筆者として有名な寺澤秀一先生(前・講座教授)が勤務していました。私は17歳の折に交通事故(出血性ショック)で同院に搬送され、寺澤先生の診療を受けました。的確なご判断で緊急手術となり、RCC 17単位の輸血の末に命を救われました。その緊急手術で麻酔を担当されたのが、NHK「ドクターG」で有名な林寛之先生(現・福井大学医学部附属病院総合診療部教授)であったことを、後に廃棄寸前の麻酔記録を読んで知りました。自分が助かった病院で、自分を助けて下さった先生方に師事し、研鑽を積みみたい。そんな思いで研修を始めました。まさか四半世紀後に寺澤先生の教室を引き継ぎ、林先生から教授選考の推薦状をいただくとは、夢にも思いませんでした。人生とは奇縁の連続です。

阪神淡路大震災が起きた平成7年1月17日は、研修を始めて9か月目でした。「自分は地図として役に立ちます」と寺澤先生にアピールし、福井県派遣

の医療救護班の第1陣に加えていただきました(当時はカーナビもスマホもありません)。15名のスタッフとともに芦屋市に派遣され、たまたま情報収集のために兵庫医大に立ち寄ったところ、宿所として大学会館和室を提供していただきました。母校の有難さが身に沁みました。その後は芦屋浜公園を拠点に避難所の巡回診療に従事し、災害関連疾患の実情を目の当たりにしました。この経験をきっかけに、災害時の医療支援活動に関わってきました。避難所から仮設住宅、復興住宅へ。被災者を待ち受ける苦難は、東日本大震災や熊本地震、近年の豪雨災害を経ても大きな改善はありません。平成も後期に入ると、被災地には超高齢社会、人口減少社会のひずみが縮図のように現れてきました。地域医療を支えないと、災害医療も発展できない。そんな視点から、地域医療に携わるようになりました。

地域医療推進講座は福井県からの寄付講座です。主な任務は福井県内の地域少数地域の支援で、奨学生(健康推進枠、地域枠)の卒前・卒後教育を担っています。学内17診療科と手を携え、専門職連携教育(Interprofessional Education :IPE)と医療介護協働を軸に、医療縮小・撤退地域であっても戦える医師の育成を、講座は目指しています。福井県では特に総合診療医と内科医が不足しています。そこで令和2年秋に「総合診療・総合内科医センター」を医学部に開設し、林教授とともに新しい教育システムの開発に乗り出しました

(<https://ggg.ned.u-fukui.ac.jp>)。県下12の医療機関の協力を得て、総合診療医、内科医を目指す医学生、初期研修医、専攻医のニーズに合った、きめ細やかな教育現場作りに取り組んでいます。一方で、地域医療構想アドバイザー、福井県災害医療コーディネーター、福井県新型コロナウイルス感染拡大防止対策チームなどの委託業務もいただいております。コロナ禍でも県内を駆け回っています。講座にとっては、福井県そのものが職場です。県全体を医学教育の現場とし、人と人の触れ合い、思いやりを大切にしながら、地域を支え、若手医療人の育成に努める。そんな理想を目指し、今後10年余りの時間をかけて、講座スタッフとともに歩いて行く所存です。教育面では、母校との連携も大きな目標の一つです。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、緑樹会の先生方、ご関係の皆様の方の益々のご発展をお祈り申し上げます。

COVID-19下の医師会

吉村 史郎 (昭和54年卒業) | 一般社団法人伊丹市医師会 会長 吉村耳鼻咽喉科 院長



私は兵庫医科大学の2期生で、いわば兵庫医大生の先祖とも言える世代で、1979年に卒業後は耳鼻咽喉科医局に入局しました。卒業生としては初めての入局者で、当時の主任教授は浅井式喉頭形成法で有名な浅井良三先生でした。医局の黎明期でもあり小さな所帯でしたが、浅井先生に師事すべく非常に個性的な先生が集まっておられました。入局2年目には、雲井健雄先生が助教授から教授に昇任されました。雲井教授のシュライパーに付くと、初診患者さんを一人診察するごとに診察室で紫煙をくゆらす、病棟にもエレベーターホールに灰皿が据え置かれており、そんな時代でした。

研修終了後は、1984年から2004年まで市立芦屋病院に勤務した後、50歳で伊丹市に耳鼻咽喉科医局を開設し、伊丹市医師会に入会しました。その後、伊丹市耳鼻咽喉科医会のご推挙があり、2008年から伊丹市医師会の理事を務めることになりました。医会のご推挙ということで勝手に辞めることもできず肅々と会務に努めておりましたところ、2016年から4年間の副会長職を経て、2020年5月に会長を拝命することとなりました。

2020年は1月に国内初のCOVID-19患者が報告され、2月にはCOVID-19は指定感染症に指定されました。3月にダイヤモンドプリンセス号内で感染クラスターが発生して以降、国内で感染が拡大し4月から5月にかけて感染の第1波となりました。市立病院に開設された発熱者外来は逼迫し、医師会としても検査体制を拡充するためにPCR検査センターを立ち上げる計画を立て市に協力を求め

ましたが、疾病対策は県の事業であると頑なに協力を拒む市当局と幾度となく折衝を繰り返し、ようやく市の協力を得て10月に医師会PCR検査センターを立ち上げることができました。

2021年は年始早々から伊丹市民20万人に対する新型コロナワクチン接種の準備が始まりました。接種は集団接種と各診療所で行う個別接種の2本立てで実施すること、予約システム並びにワクチン配送業務は市が一括管理することを決定しました。接種時のアナフィラキシー対策として、消防局に接種を実施する全医療機関を把握してもらい直ちに救急車が出動できるよう準備しました。5月から集団接種、個別接種の順に開始し、8月末時点で65歳以上市民の9割がワクチン2回接種を完了し、12~64歳の5割が1回接種、3割が2回接種を完了しています。しかし、ワクチン接種事業の完了が見えてホッとしたのも束の間、8月に始まったデルタ変異株による第5波は、従前の波に比べて感染力が強く、若年層に感染者が多発しています。一方、高齢者のワクチン接種が進捗した事もあるか死者数が感染爆発に比して増えてこないのは幸いです。しかし、活動的な年齢層の感染者は不自由なホテル療養を忌避し自宅療養を希望するそうで、指定感染症の縛りが仇となり、保健所の介入が必須であるため、医療崩壊以前に保健所崩壊が生じており、自宅療養者が自宅棄民となりつつあります。これは感染初期のゴールデンタイムに医療を受ける機会を逸しかねない重大な問題です。ワクチン接種も進み、有効な治療の知見も集積されつつある現在、地元医師

会が中心となって初期治療に積極的に関与することは、COVID-19対策の要であり、市民の健康を守る「かかりつけ医」の責務であると考えています。

COVID-19の第1波の直後に会長に就任し、その対応に忙殺された1年数ヶ月でしたが、「戦時宰相」ならぬ「パンデミックチェアマン」として会員の感染リスクや業務負荷にも配慮しながら職務を全うする所存です。

神戸市行財政局担当局長就任に際して ～こんな私でもここまでこれました～

樋口 純子 (昭和61年卒業) | 神戸市行財政局担当局長



緑樹会の皆様、昭和61年卒の樋口純子です。このような機会をいただき、感謝申し上げます。昔を思い出しながら、皆さま方への感謝とエールを送りたいと思います。

学生時代

「僕の眼の黒いうちは、お前を絶対に進級させないからな!!」

当時医動物学教室の教授(現名誉理事)でバスケット部の顧問だった、新家荘平先生から、こっぴどく怒られました。授業をさぼってバスケばかりやっていたのです。学生時代は楽しい思い出がたくさんあり、その時に出会った人たちは今でも大切な宝物です。

臨床時代

第二内科に入局。研修医時代にあの「エイズパニック」を経験。当時正しく理解できていたか定かではありませんが、「病気を理由にした強烈な偏見・差別」問題を私の心に刻んだ出来事であり、後の医師としての生き方に多大な影響をもたらしました。そして、興味があった予防医学に目を向けることになりました。

神戸市役所に

平成2年4月に神戸市役所に入り、市民の健康を支える行政医師としての勤務が始まりました。当時同僚医師は20人程いましたが、国立大学出身で占めら

れ、自身、医師会や神戸市役所に元々の人脈もなく、「だれ?」という目で見られていたかもしれません。

主な業務内容は、健康づくり、感染症、医務薬務対策で、興味深いものでした。ただ最初は役割もあまり認知されず苦労しました。以下研修医用(後述)に作成したpptです。

業務上の大きな出来事をいくつかあげると、阪神淡路大震災、東日本大震災現地派遣、新型インフルエンザ(神戸で国内初の発生)対応などでしょうか。今はまさにコロナ対応です。

また兵庫医大関連で言えば、平成16年度から6年間医師臨床研修の指導医として、毎月兵庫医大からも地域保健講座に1～2名、受け入れてきました。受診中の人、受診できない人、受診に無関心な人など地域には様々な人たちがいて、そんな背景を持つ人の訪問を積極的に経験してもらいました。あの頃の研修医の皆さん、今どうしておられますか?

平成25年に、市職員健康管理担当部署に異動。産業医、労働衛生コンサルタントとして、今度は神戸市職員約2万人の心身の健康管理を行うことになり現在に至っています。

この間、地元医師会をはじめ地域の先生方、特に兵庫医大卒業の先生方に

は随分助けていただきました。「同窓生」というだけで気軽にお声かけ下さったり、業務上の相談にもものってもらいました。神戸や近隣でご活躍されている先生方が多いことは心強く、暖かいものと、事あるたびに思いました。先輩方から築いてこられた学風もあるのではないのでしょうか。

そしてこの4月より担当局長を拝命するまでになりました。こんな私が、です。お祝いの連絡もいただきました。有難うございました。

行政医師、公衆衛生など臨床以外にも大きなチャンスがある

今年の7月8日には兵庫医大卒業後臨床研修係のご厚意により、研修医セミナーで神戸市行政医師の働き方を紹介させていただきました。阪上雅史病院長、平野公通准教授、係の皆様、本当にお世話になりました。行政医師が神戸市だけでなくこの自治体(保健所)でも不足し、このコロナ禍で大変な状況に陥っています。少しでも興味のある方はご連絡下さい。

私事ですが、昨年還暦を迎えました。もう少しポツポツとやっといこうと思います。

緑樹会の皆様のご活躍、ご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

どうぞお元気で過ごして下さいませ。



臨床医と行政医師の比較(私見)

項目	臨床医	行政医師
領域	治療	予防中心
仕事の身体的負荷	当直などあり重い	基本日勤のみで軽い
守備範囲	専門分野	広く浅く
上司	同職種・医師	事務職
知名度	大	皆無
組織における位置	主役	脇役
仕事の基盤	根拠に基づいた医療	法律

准教授就任のご挨拶

中嶋 一彦 (平成7年卒業) | 兵庫医科大学 感染制御学 准教授



令和3年4月1日付けにて兵庫医科大学感染制御学准教授および感染制御部部長を拝命致しました。平成7年兵庫医科大学を卒業後、本学第4内科(現消化管内科)に研修医として入局致しました。本学病原微生物教室での大学院と同教室の教員、本学消化管内科学講座を経て、平成18年より前任の竹末芳生教授の感染制御部へ移動し、感染症治療、院内感染対策に従事、研究を行って参りました。第4波のコロナ禍のもの本職を拝命、引き継

ぐこととなり身の引き締まる思いの日々です。感染症治療、感染対策は他の診療科医師を初め、あらゆる職種の方、および地域の他医療機関とのご協力を頂いてこそ診療、研究ができる部署です。これからより一層感染症に強い施設となるよう尽力して参ります。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

講師就任のご挨拶

加古 泰一 (平成14年卒業) | 兵庫医科大学 放射線医学 講師



令和3年4月より兵庫医科大学放射線医学講座の講師を拝命しました。平成14年に本学を卒業し、同講座へ入局し研修を行ったのち、医療法人明和病院で約5年間、肝胆膵中心とした画像診断やIVR(インターベンショナルラジオロジー・画像下治療)の基礎を学びました。平成21年より当教室へ戻り、CT/MRI/PET/RIの画像診断やIVRの研鑽に励んでおります。入局当時のIVRは肝がんに対する肝動脈塞栓術がほとん

どでしたが、最近は肝がん・肺がん・骨軟部腫瘍等に対するラジオ波焼灼療法(RFA)、腎がんに対する凍結治療など非血管系IVRが多くなっています。今後も低侵襲で治療効果のあるIVR治療を提供できる様に努めると共に画像診断でも臨床医の先生方のお役に立てるよう日々努力していく所存です。

今後共ご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

講師就任のご挨拶

奥川 卓也 (平成18年卒業) | 兵庫医科大学 消化器内科学 講師



令和3年4月より兵庫医科大学消化器内科学講座の講師を拝命いたしました。

私は平成18年に本学を卒業し、同病院での初期研修を経て、消化管内科(当時は内科学上部消化管科)に入局いたしました。その後、当院やその関連病院にて研鑽を積んでまいりました。

当科では、機能的消化管疾患や炎症性腸疾患などの良性

疾患から、消化管癌などの悪性疾患の診断、治療(内視鏡治療、薬物療法)を行っており、多施設共同研究への参加、外科との合同手術(LECS)なども積極的に行なっております。

これからも、患者さんのため、本学の益々の発展のために尽力していく所存です。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

講師就任のご挨拶

田片 将士 (平成15年卒業) | 兵庫医科大学 眼科学 講師



令和3年7月より兵庫医科大学眼科学講座の講師を拝命いたしました。私は平成15年に本学を卒業、眼科に入局、その後、公立八鹿病院、紀洋会岡本病院で勤務させて頂きました。平成20年より本学大学院に入学し、研究テーマとして眼球から後頭葉視中枢へと連なる視路を形成する脳神経領域に関する再生医療の研究をどうしてもしたいと当時主任教授であった三村治先生にお願いし、中枢神経における内因性神経再生の研究をされていた本学先端医学研究所神経再生研究部門

の松山知弘教授のもとで勉強させて頂く機会を頂戴しました。大学院では神経再生と免疫との関係を検討するというテーマの基礎研究を行い、内因性神経再生と免疫のメカニズムを解明し充実した大学院生活を過ごすことができました。その後、当院眼科にて中枢神経とも関連した緑内障を専門として診療を行っております。微力ながら、母校の発展に貢献できるように尽力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

講師就任のご挨拶

荒木 敬士 (平成20年卒業) | 兵庫医科大学 眼科学 講師



令和3年7月より眼科学教室の講師を拝命致しました。私は平成20年に本学を卒業し、本学で初期研修後、当教室に入局致しました。網膜剥離、糖尿病網膜症、外傷などの網膜硝子体分野を専門としております。最近、3Dの立体手術映像を医療用55インチ4Kモニターで映し出しながら行う手術も取り入れることで、術者と同じ映像をスタッフ、学生も共有することが可能となりました。最新の治療を行いながら、より良い教育にも努めております。こ

れからも本学の更なる発展に尽力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

内科・脳神経内科・リハビリテーション科

つだ内科・脳神経内科
TSUDA Neurological Clinic

生活習慣病を中心とした一般内科から、脳神経内科疾患、脳リハビリテーションまで幅広く診察しています。

院長・医学博士
津田 健吉(つだ けんきち)
平成12年卒
兵庫県尼崎市南武庫之荘1丁目12-1
松弥サウスモール2階

2020年10月2日
新規開院



北条町横尾の内科 / 訪問診療のクリニック

内科 訪問診療

やまもと内科クリニック 令和2年5月開業
Yamamoto Medical Clinic

院長
山本 憲康
平成7年卒業

〒675-2311
兵庫県加西市北条町横尾 1240



こんなところに卒業生 - アメリカ合衆国レキシントン

澤田 悠 (平成20年卒業) | ケンタッキー大学 サハ心臓血管研究センター Assistant Professor



緑樹会の皆様、こんにちは。2008年(平成20年)卒の澤田悠と申します。ケンタッキー大学サハ心臓血管研究センターという施設で、大動脈疾患に関する基礎研究に従事しております。また医学部生理学教室にも在籍し、教員として大学生・大学院生・博士研究員への指導も行っております。折角の機会を頂きましたので、アメリカの片田舎に暮らす日本人基礎研究者の現状を、簡単に紹介させていただきます。

私は、5年間の大学院生活の後、2015年に博士号を取得しました。そこで学生の時より考えていた海外留学に舵を切り、アメリカに渡りました。以来ケンタッキー大学のアラン・ドガティ博士が主宰する研究室にお世話になっております。ケンタッキー大学は、アメリカ中部のレキシントンという小さな町にある州立大学で、UKの愛称で親しまれています。ドガティ先生は、イギリス人の薬理学者で、大動脈瘤や動脈硬化といった動脈疾患におけるレニン・アンジオテンシン系の役割を長年調べておられます。私のプロジェクトは胸部大動脈瘤の分子メカニズムの探索で、プロテオミクスやトランスクリプトミクスといった解析手法を用いたバイオインフォマティクスを主な仕事としております。しかし大学教員としての立場もあるので、日中は大学関係のミーティングや書類仕事に時間を割くことが多く、実際の実験やデータ解析は夜や週末にするというシフトをとっています。労働時間は短くありませんが、特に苦もなく、その忙しさを今のところは楽しめています。

生活もまずまずで、気づいたら渡米後



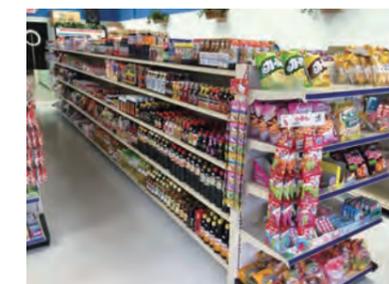
中国人学生の送別会での一枚。ラポには中国人が多く、皆器用。後列中央がドガティ博士、一番左が著者。

6年が過ぎました。レキシントンは田舎町で、周りには特に何もありません。自宅から車で10分も行けば、草原地帯が広がり、馬が走っています。どこかへ旅行するにも、5時間以上の車移動が必要となります。「えらい田舎にきてしまった…」と渡米当初は悩みましたが、今はもう慣れ、むしろ都会への恐怖を感じます。田舎なので人は優しいです。皆笑顔で、すぐに声をかけてくれます。自分がモテる男になったのかと勘違いするほどです。凶悪犯罪は皆無で、夜中でも問題なく家まで帰られます。こんな田舎町ですが日本食スーパーがあり、米・醤油・味噌など一通りのものは手に入ります。もしこのスーパーがなかったら…、恐怖です。そして、なんと日本食スーパーの店主の奥様は、兵庫医大病院の元看護師さんだったそうで、不思議な縁を感じます。

アメリカで基礎研究をする意味は毎日のように考えます。「日本にいる家族や友人に簡単には会えない」「アメリカ飯」

「外国人差別」などデメリットは確かに存在します。しかしながら、アメリカでしか学べない知識や技術は相当数あります。また、世界的に著名な先生方と直接議論できるのは、何物にも代え難い貴重な経験だと思います。6年経っても、アメリカはまだまだ刺激的。いつか日本へ帰ることに思いを馳せ、もう少しアメリカで自分を揉んでみようと思っております。

ケンタッキー大学 サハ心臓血管研究センター
▶ <https://med.uky.edu/users/hsa243>



レキシントンにある日本食スーパー。おやつのカールも手に入る。

兵庫医大の中皮腫を日本一から世界へ

橋本 昌樹 (平成17年卒業) | 兵庫医科大学 呼吸器外科学 講師



この度の受賞論文、“Pleural thickness after neoadjuvant chemotherapy is a prognostic factor in malignant pleural mesothelioma”は悪性胸膜中皮腫(MPM)における胸膜肥厚長が従来のT因子(周辺組織への浸潤の程度)に比べて予後とより相関していることを明らかにしました。本研究がトップジャーナルに掲載され本賞を受賞できたのは本学の諸先輩方のおかげと言っても過言ではありません。

MPMは石綿曝露と密接に関連した予後不良の悪性腫瘍で、年間発生数は1500人ほどの稀少疾患です。本邦の

MPM研究の第一人者は本学卒業生の中野孝司先生(S54卒)であり、まだ年間発生数が少ない時より尼崎で頻発するMPMについて研究されていました。中野先生はじめ様々な諸先輩方の長年の努力の結果、兵庫医大は本邦で最多の患者数を有する施設となりました。我々、呼吸器外科においても手術症例数は、本邦最多はもちろん世界有数の施設となりました。このような環境で診療・研究に従事できるとは本当に幸せですし、とても誇らしく思います。先輩方が紡いでくださったこの途を、これからは後輩達とともに歩み、そしてさらに高められるよ

うに日々精進して参りたいと思います。この度は本当にありがとうございました。これからも本学のMPMについての診療・研究にご注目ください。



兵庫医科大学における大規模疫学研究と協力頂いた先輩方への感謝

辻 翔太郎 (平成23年卒業) | 兵庫医科大学 整形外科学 助教



緑樹会の皆様お初にお目にかかります。平成23年卒の辻 翔太郎と申します。現在、私は兵庫医科大学 整形外科学 助教として骨粗鬆症、骨代謝疾患を専門とし診療及び研究をさせて頂いております。この度は第4回兵庫医科大学同窓会緑樹会学術奨励賞という輝かしい賞をいただきまして誠に光栄に感じております。緑樹会会長及び、選考委員会の先生方に深謝申し上げます。今回賞を頂いた論文は2017~2019年に丹波篠山圏域で行った大規模高齢者疫学研究のデータを用い、腰痛とフレイルの関連を明らかにした内容です。この研究は兵庫医科大

学の内科総合診療科、リハビリ科、歯科 口腔外科、地域医療学、医療情報学の先生方、兵庫医療大学の薬学部、リハビリテーション学部の先生方と共同で行っており、中でも岡山 明洙先生をはじめ多くの同窓の先生方に研究の立案や論文文化に関して協力頂きました。謹んでお礼申し上げます。

また、現在私は橋 俊哉主任教授の元で同窓の大学院生2名の研究指導にあっております。そのため今後はこの2名にも同窓の先輩として自分がして頂いた事と同様に協力を惜まず、素晴らしい研究成果をあげ、国際学会で発表しても

らい、価値の高いJournalで論文化し、いずれはこの緑樹会学術奨励賞をとってもらえるよう自分自身日々研鑽していきたいと思います。最後になりましたが、緑樹会の先生方には今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



手術治療と保存治療の大切さ

井石 智也 (平成21年卒業) | 兵庫医科大学 整形外科学 助教



緑樹会員の皆様、こんにちは。石蔵 会長よりアスリートを支えるというお題を承り、寄稿させて頂きました。私は学生時代にバスケットボール部に所属しており、自身の怪我の経験もあって、卒業後は整形外科学教室に入局してスポーツ障害の関節外科医への道を専攻しました。2016年からUPMC (University of Pittsburgh Medical Center)に留学し、最新の関節鏡視下手術や再生医療の基礎研究に従事しました。現在は大学病院でスポーツをされる中高齢の患者様やプロのアスリートの軟骨障害や靭帯損傷の手術治療をしています。

怪我や慢性障害を抱えるアスリートやスポーツをされる方は復帰への目標やゴール設定がそれぞれ違います。大学病院で働く整形外科医は手術手技の研鑽ばかりに目がいきがちですが、リハビリなどの保存的な治療も患者様に大事な治療オプションと考えています。短い外来診察時間だけでは治療経過を追うには限界があり、実際には現場で選手と接するトレーナーや理学療法士との連携が大変重要になってきます。うまく現場と関係を築くこともスポーツに携わる医師にとっては大事な要素だと感じています。私自身もプロバスケットボールBリーグの西宮ストークスにメディカルサポートとして携っており、怪我やコンディション不良の選手についてチーム専属トレーナーからリハビリメニューやブロック注射などの相談を受けています。

最近では外来で行える保存治療の新しいオプションとして留学時代に学

んだ『再生医療(バイオセラピー)』を取り入れています。患者様の静脈血を濃縮させた多血小板血漿(PRP)や間葉系幹細胞とその分泌上清(EV)を痛めた組織に局所注射することで組織修復や抗炎症効果が期待されます。並行して動物を用いた基礎研究で効果の検討や新製剤の開発にも取り組んでおります。2年前にはアキレス腱断裂を受傷したバスケットボール選手の術後にPRPを局所注射と積極的なリハビリをすることで、通常8ヶ月以上かかる復帰を3ヶ月まで早めることができました。この症例は復帰を早めた方法が評価され、昨年の国際科学雑誌Regenerative Therapy誌に掲載することができました。ちなみにこの選手は当時本学6年生だった松前雄大先生(令和2年卒業)です。前年度に全医体準優勝したチームをキャプテン

として率いていた彼が、最後の引退試合に間に合ったことは先輩として、主治医としてこの上ない喜びでした。

本稿を作成している7月下旬はコロナ禍で始まった東京オリンピック真っ只中です。テレビで観戦しながらスポーツから生まれる達成感や団結力が社会形成や個人の心身健康に必要不可欠であることを再認識しております。私たちドクターは、手術や辛いリハビリテーションを乗り越えるアスリートを縁の下で支えることでスポーツに関わり、やりがいを持って日々診療にあたっております。大学の外来ではスポーツ障害の脊椎、上肢、下肢に特化した医局員が複数名おります。お困りの症例があった際は是非ご連絡ください。



笑顔で前向きに

清水 由貴 (令和2年卒業) | 兵庫医科大学 卒後研修センター



2020年4月より兵庫医科大学病院で初期研修をさせて頂いています、清水と申します。研修が始まって1年半が経ち、たくさんの失敗を経験しながらも、ようやく少しずつ出来るが増えてきたように思います。今回は誠に僭越ながら、この場をお借りして、私の研修生活を振り返らせて頂きたいと思います。

研修開始当初、国試で必死に勉強した内容も、春休みのうちにすっかり忘却の彼方へ、本当に何も出来ない状態から始まりました。さらには、当時コロナウイルスで緊急事態宣言下であり、研修の

内容も一部制限がありました。2年しかない研修で、ちゃんと立派な医師になれるのか、不安の中でのスタートでありました。

しかし、今ではこの様な心配は無用であったと思います。とにかく覚える事が山積みで、手技は失敗、アセスメントも指導医と全然違うことに焦りを感じながら、前進しかない日々であったと思います。

最近では、患者さんとの関わり方、特に明るく、前向きでいることの大切さを痛感しています。大学病院には様々な辛

さを抱えた患者さんが入院されてきます。そんな中で、当初不安も強かった患者さんが先生との関わりの中で、精神的にも元気になっていく様子はとても印象的でした。

まだまだ力不足で、自分のことで精一杯な時もありますが、どんなに大変でも笑顔と前向きな気持ちを忘れずに、これからも残りの研修を頑張っていきたいと思っています。

大学院 研究日記

Those who want to learn to walk, must walk!

森 剛士 (平成8年卒業) | (株)ボラリス 代表取締役 (医社)オーロラ会 森クリニック 理事長 兵庫医科大学 地域総合医療学 非常勤講師



相変わらず、人類とコロナウイルスとの闘いが続いています。私は、阪神大震災や東日本大震災を経験した際には、都度自分のできる範囲でささやかな復興支援をしてきました。今回は、できるだけ多くの方にワクチンを接種頂くことで貢献しようと決め、9月末までに延べ約5000名の方に摂取を完了する予定です。

さて本題です。今回は「運動学習理論」について、「歩けるようになるには歩かなくてはいけない」というお話をさせて頂きました。我々は通所介護施設にお

いて、要介護高齢者の方々に積極的に歩いて頂くのですが、これが簡単にできれば誰も苦労しません。「歩きましょう」と言っても歩けない5つの阻害要因を介護職や看護師たちが丁寧に取り除いていく事になります。その5つの阻害要因とは
①脱水 ②低栄養 ③下剤服用(便秘)
④意欲・体力の低下 ⑤多剤併用(ポリファーマシー)です。なぜ要介護高齢者の方々が歩行を再獲得するために、これら5つが阻害要因となるのか次回以降、説明させていただきます。



呼吸器・血液内科学(呼吸器内科) 南 俊行 | 兵庫医科大学 呼吸器・血液内科学 講師

1 スタッフ	◆主任教授/木島 貴志 ◆臨床教授/栗林 康造(平成7年卒業) ◆准教授/横井 崇(胸部腫瘍学特任) ◆講師/高橋良、南 俊行、三上 浩司(平成19年卒業)、大搦 泰一郎(平成19年卒業)、柴田 英輔(平成21年卒業) ◆助教/堀尾 大介、二木 麻衣子(胸部腫瘍学特任)、柘木 芳樹(平成23年卒業)
2 得意とする分野	肺癌および悪性胸膜中皮腫などの胸部悪性腫瘍に対する化学療法、びまん性肺疾患・アレルギー性疾患に対する分子標的治療を含む薬物療法
3 実績	2020年度 肺癌の診断と治療 187例 悪性中皮腫 52例(胸膜51例、腹膜1例)
4 注力している研究	①悪性胸膜中皮腫の新規化学療法確立のための基礎研究、臨床研究 ②肺癌に対する免疫療法の最適化を目指す基礎研究、臨床研究



緑樹会の先生方、平素より大変お世話になっております。呼吸器内科は2017年より診療部長に木島貴志が就任し、前診療部長の中野孝司が築いた悪性胸膜中皮腫診療拠点としての豊富な実績を受け継ぎながら、呼吸器疾患全般へ診療の幅を広げております。呼吸器疾患の内科治療については、胸部悪性腫瘍に「ドライバーがん遺伝子転座・変異に対する小分子阻

害薬」「血管新生阻害薬」「免疫チェックポイント阻害薬」が、進行性の線維化を伴う間質性肺炎に「抗線維化薬」が、難治性喘息に「生物学的製剤」が、といったように次々に分子標的治療薬が適応となり、治療成績が格段に向上しました。当科では難治性呼吸器疾患のさらなる治療成績の改善を目指し、多数の臨床試験に携わりつつ、基礎研究を通して疾患の病態につ

いてなぜかと問いかけながら、新たな診断・治療方法の開発を探索しています。新型コロナウイルスの流行で、これまで以上に当科の果たす役割が大きくなったことを自覚しております。今後も緑樹会の先生方と緊密に連携し、阪神間の呼吸器診療の拠点としての役割を果たして参ります。引き続きご指導の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

乳腺・内分泌外科学(乳腺・内分泌外科) 今村 美智子 (平成11年卒業) | 兵庫医科大学 乳腺・内分泌外科学 講師

1 スタッフ	◆診療部長/三好 康雄 ◆講師/永橋 昌幸、今村 美智子(平成11年卒) ◆病院助手/樋口 智子、福井 玲子、文 亜也子 ◆レジデント/金岡 遥(平成30年卒)
2 得意とする分野	乳腺疾患の診断、手術(再建含む)、薬物治療、遺伝性乳がん診療、臨床研究・治験など
3 実績	2020年乳癌手術症例数:192症例(再建:12症例) 針生検症例数:271症例
4 注力している研究	①乳癌の生物学的特徴の解明 ②薬物療法の感受性予測や耐性機序の解明 ③腫瘍や微小環境、宿主因子を含めた予後規定因子の解明



緑樹会会員の皆様、いつも多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。当科では、乳がんを中心とした診療を行っています。各診療科とのチーム医療体制のもとで手術や薬物療法を行っているのはもちろんですが、昨年より遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者様には遺伝子検査や予防切除が保険適応となったことから、遺伝性疾患の疑われる患者様に対する診療にも力を注ぐようになりました。遺伝子医療

部と連携しカウンセリングや遺伝子診断のサポート、サーベイランスも行っています。乳がん治療の主体となる薬物療法に関しても、標準治療はもちろんのこと臨床試験や治験にも積極的に取り組んでおり、治療選択肢の少ないトリプルネガティブ乳がんや再発症例の治験にも数多く参加し最先端の治療ができる診療科を目指しています。また、患者様のサポート体制の充実にも心がけており、乳癌専門認定看護師

や癌化学療法認定看護師の協力のもと患者さん同士の交流やピアサポートにも力を入れています。外科という枠にとられない診療体制のさらなる拡大を目指して力を注いでいく所存でございますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。



学会報告

日本超音波医学会第94回学術集会

会長 飯島 尋子(兵庫医科大学 消化器内科/超音波センター)



令和3年5月21日(金)から23日(日)の3日間、神戸ポートピアホテルに於いて、日本超音波医学会第94回学術集会を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症にともなう政府の緊急事態宣言が発令され、多くの制約が強られる中、本学術集会で初の試みとなるハイブリッド開催で実施いたしました。

「華ひらく超音波医学一次世代医療への展開」をテーマに掲げ、先進医療はもちろんですが、特に症例検討や新しい分野の教育的内容に重きを置く会にしたいと様々な企画をいたしました。残念なことに現地での企画を断念せざるを得ないものもございましたが、素晴らしい発表と活発な討論が行われておりました。本会を通じて、未来に向かって超音波の魅力を発信すると共に、超音波を通じ幅広い方々と様々な角度から情報交換し、友情を深める場になっていましたら幸いです。

また、オンデマンド配信でも多くの方にご視聴いただき、参加者は現地・WEBを合わせて5000名を超え、無事に全日程を終了することができました。これもひとえに、ご支援を賜りました全ての皆様のお力添えのおかげと、深く感謝申し上げます。



JDDW2021 第29回 日本消化器関連学会週間 第25回 日本肝臓学会大会

「明日の肝臓学へ ～クロスボーダーの挑戦～」開催のご案内



日時 2021年11月4日(木)~7日(日)

会場 神戸コンベンションセンター

会長 飯島 尋子(兵庫医科大学 消化器内科)

URL <https://www.jddw.jp/jddw2021/>

JDDW2021は、2021年11月4日(木)~7日(日)の4日間、神戸市(神戸コンベンションセンター)において開催されます。

JDDW2021、第29回日本消化器関連学会週間におきまして、私はこの度、第25回日本肝臓学会大会を開催させていただくことになりました。

テーマは「明日の肝臓学へ ～クロスボーダーの挑戦～」です。将来を見据える中で、肝疾患の基礎・臨床に関する多くの重要課題を克服するためには、性別、専門領域、そして国境を越えたチャレンジが不可欠であるという私の思いをテーマに込めております。肝疾患の進展や肝発癌における、肝線維化、生活習慣、腸内細菌の関与、肝癌・肝硬変の予後改善を目指した新たな治療戦略など、肝疾患の臨床と研究の発展につながる内容を企画し

ております。本学術集会によって、若手医師・研究者のモチベーションが喚起され、肝臓学の進歩と学会の発展の端緒となれば望外の喜びでございます。2021年秋までにはCOVID-19感染症が落ち着き、開催できることを心より願っております。消化器関連学会の先生方のご参加をお待ちしております。何卒よろしくお願い申し上げます。



総会報告

第44回兵庫医科大学同窓会緑樹会総会報告

日時:令和3年7月3日(土)15:00~16:00

場所:兵庫医科大学「第2会議室」

議長:岡田 昌也 常任理事

議案① 令和2年度事業報告

議案② 令和2年度決算報告

議案③ 令和2年度会計監査報告

議案④ 令和3年度(4-5月)決算報告

議案⑤ 令和3年度(4-5月)会計監査報告

議案⑥ 令和3年度事業計画案

議案⑦ 令和3年度予算案

石蔵 礼一 会長

田村 和朗 常任理事

深田 正代 監事

田村 和朗 常任理事

深田 正代 監事

石蔵 礼一 会長

田村 和朗 常任理事



写真撮影時のみマスクを外しています

令和3年7月3日、第44回定期総会を開催しました。会場出席24名、委任状提出578名にて会員総数の10分の1以上の出席により総会の成立を確認、議案①~⑦について審議の結果、すべての議案が原案どおり可決されました。特記事項として令和3年5月31日に令和3年度任意団体の決算を実施しました(会計報告30p)。任意団体の繰越金は全額を法人に引き継ぎます。また緑樹会は令和3年6月1日、一般社団法人兵庫医科大学同窓会を設立し法人として新たにスタートいたしました。新組織では代議員制を採用し、緑樹会の持続的な発展のために健全で透明性の高い運営を目指します。引き続き緑樹会の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

総会後、教授に就任された先生の紹介、続いて第4回緑樹会学術奨励賞授賞式を行いました。例年は記念講演会を開催していますが、今年は開催を控えWEB録画配信にて実施しました。懇親会については中止としました。事前にお知らせいたしましたとおり、新型コロナウイルス感染防止の為、今年もハイブリッド形式による実施となりました。開催に際しご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

◆教授就任

夏秋 優

皮膚科学 教授

瀬尾 徹

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科
横浜市西部病院 教授

山村 修

福井大学医学部地域医療推進講座 教授

◆第4回緑樹会学術奨励賞

「悪性胸膜中皮腫における胸膜肥厚長 -予後因子として新たなT因子へ-」

橋本 昌樹

呼吸器外科 講師

「腰痛はサルコペニアではなくフレイルと密接に関連する -地域在住高齢者横断研究-」

辻 翔太郎

整形外科 助教

[令和2年度緑樹会事業報告]

① 緑樹会会員支援

- ・顕著な成果を挙げた会員の表彰(教授、医師会会長)
- ・緑樹会学術奨励賞授与(50歳以下会員の研究活動支援)
- ・緑樹会会員が会長を務める学会支援
- ・緑樹会学術セミナー開催
- ・広報活動

(会報リニューアル、HPリニューアル)

- ・会員名簿発行
- ・緑樹会シンボルマーク入りスクラップ、白衣斡旋

② 兵庫医科大学との連携、後援

- ・法人要職との定期懇談会実施
- ・開学50周年記念事業への参画
- ・後援会との連携
- ・白衣授与式白衣の費用半額負担
- ・国試対策画像診断セミナー開催
- ・卒業記念品贈呈

[令和3年度事業計画案]

① 開学50周年募金活動への協力

② 逆紹介のためのマップ作成

③ 大学広報との連携強化

④ SNSを活用した広報活動

⑤ 会員への福利厚生支援

⑥ 不明会員の調査

⑦ 医療大同窓会(海臈会)との相互連携

令和2年度決算報告書

令和2年4月1日～
令和3年3月31日

◆ 収支決算書						単位:円					
収入の部			支出の部			収入の部			支出の部		
科目	予算	決算									
(卒)新入学生会費	300,000	510,000	人件費	4,800,000	4,628,650	(卒)新入学生会費			人件費		358,220
年会費	12,000,000	12,355,000	法定福利費	250,000	23,458	年会費	20,000		法定福利費	5,300,000	0
広告費収入	1,300,000	2,930,000	職員交通費	60,000	63,960	広告費収入	790,000	5,330	職員交通費	790,000	5,330
集金事務費収入	500,000	535,719	通信費	300,000	234,953	集金事務費収入	100,648	92,267	通信費	300,000	234,953
預金利息	1,000	268	印刷費	600,000	438,460	預金利息	18	30,771	印刷費	18	438,460
雑収入	0	2,000	事務用品費	100,000	45,566	雑収入	0	50,276	事務用品費	100,000	45,566
収入計	14,101,000	16,332,987	備品費	200,000	162,294	収入計	6,210,666	23,364	備品費	200,000	162,294
特別収益(懇親会)	500,000	495,000	教授就任祝費	300,000	400,000	特別収益(懇親会)	0	0	教授就任祝費	300,000	400,000
特別収益(寄付金)	0	0	慶弔費	300,000	20,000	特別収益(寄付金)	0	20,000	慶弔費	300,000	20,000
特別収益計	500,000	495,000	緑樹会学術奨励費	100,000	100,000	特別収益計	0	0	緑樹会学術奨励費	100,000	100,000
収入合計	14,601,000	16,827,987	学術費	500,000	0	特別収益計	0	0	学術費	500,000	0
前年度繰越金	39,388,518	39,388,518	会報発行費	3,400,000	2,994,898	収入合計	6,210,666	100,000	会報発行費	3,400,000	2,994,898
			名簿発行費	2,200,000	118,467	前年度繰越金	45,180,107	0	名簿発行費	2,200,000	118,467
			渉外費	1,200,000	0	合計	51,390,773	2,205,196	渉外費	1,200,000	0
			会議費	100,000	33,000			0	会議費	100,000	33,000
			教育支援費	1,200,000	793,065			0	教育支援費	1,200,000	793,065
			取納手数料	300,000	217,567			0	取納手数料	300,000	217,567
			雑費	50,000	0			0	雑費	50,000	0
			緑樹会グッズ作成費	600,000	273,350			0	緑樹会グッズ作成費	600,000	273,350
			HP制作費	2,000,000	213,840			151,800	HP制作費	2,000,000	213,840
			減価償却費	180,000	176,590			29,430	減価償却費	180,000	176,590
			予備費	1,000,000	0			0	予備費	1,000,000	0
			支出計	19,740,000	10,938,118			3,149,731	支出計	19,740,000	10,938,118
			特別損失(懇親会)	200,000	98,280			0	特別損失(懇親会)	200,000	98,280
			特別損失計	200,000	98,280			0	特別損失計	200,000	98,280
			支出合計	19,940,000	11,036,398			3,149,731	支出合計	19,940,000	11,036,398
			次年度繰越金	34,049,518	45,180,107			48,241,042	次年度繰越金	34,049,518	45,180,107
合計	53,989,518	56,216,505	合計	53,989,518	56,216,505	合計	51,390,773	48,241,042	合計	51,390,773	48,241,042

◆ 貸借対照表				単位:円			
資産の部		負債・資本の部		資産の部		負債・資本の部	
現金・預金	47,133,135	未払金	2,459,735	現金・預金	47,765,065	未払金	1,300
[うち積立金※1]	[5,619,440]	剰余金(繰越金)	45,180,107	[うち積立金]	[5,619,440]	剰余金(繰越金)	48,241,042
固定資産(什器備品)	506,707			固定資産(什器備品)	477,277		
資産の部合計	47,639,842	負債・資本の部合計	47,639,842	資産の部合計	48,242,342	負債・資本の部合計	48,242,342

◆ 繰越金				※1 積立金内訳			
前年度繰越金	39,388,518	積立累計額		前年度繰越金	39,388,518	積立累計額	
今年度収入	16,827,987	名簿発行積立	1,619,440	今年度収入	16,827,987	西部会積立	1,000,000
今年度支出	11,036,398	全国会積立	500,000	今年度支出	11,036,398	教授就任祝積立	2,500,000
[収支差額]	[5,791,589]	合計	5,619,440	[収支差額]	[5,791,589]		
次年度繰越金	45,180,107			次年度繰越金	45,180,107		

令和3年度予算案

令和3年6月1日～
令和4年5月31日

◆ 収支決算書						単位:円					
収入の部			支出の部			収入の部			支出の部		
科目	R2決算	R3予算									
(卒)新入学生会費	510,000	300,000	人件費	4,628,650	4,900,000	(卒)新入学生会費	510,000	300,000	人件費	4,628,650	4,900,000
年会費	12,355,000	12,500,000	法定福利費	23,458	500,000	年会費	12,355,000	12,500,000	法定福利費	23,458	500,000
広告費収入	2,930,000	800,000	職員交通費	63,960	60,000	広告費収入	2,930,000	800,000	職員交通費	63,960	60,000
集金事務費収入	535,719	530,000	通信費	234,953	300,000	集金事務費収入	535,719	530,000	通信費	234,953	300,000
預金利息	268	1,000	印刷費	438,460	500,000	預金利息	268	1,000	印刷費	438,460	500,000
雑収入	2,000	0	事務用品費	45,566	100,000	雑収入	2,000	0	事務用品費	45,566	100,000
収入計	16,332,987	14,131,000	備品費	162,294	200,000	収入計	16,332,987	14,131,000	備品費	162,294	200,000
特別収益(懇親会)	495,000	0	教授就任祝費	400,000	300,000	特別収益(懇親会)	495,000	0	教授就任祝費	400,000	300,000
特別収益(寄付金)	0	0	慶弔費	20,000	200,000	特別収益(寄付金)	0	0	慶弔費	20,000	200,000
特別収益計	495,000	0	緑樹会学術奨励費	100,000	100,000	特別収益計	495,000	0	緑樹会学術奨励費	100,000	100,000
収入合計	16,827,987	14,131,000	学術費	0	300,000	収入合計	16,827,987	14,131,000	学術費	0	300,000
前年度繰越金	39,388,518	48,241,042	会報発行費	2,994,898	3,430,000	前年度繰越金	39,388,518	48,241,042	会報発行費	2,994,898	3,430,000
			名簿発行費	118,467	0				名簿発行費	118,467	0
			渉外費	0	500,000				渉外費	0	500,000
			会議費	33,000	30,000				会議費	33,000	30,000
			教育支援費	793,065	900,000				教育支援費	793,065	900,000
			取納手数料	217,567	250,000				取納手数料	217,567	250,000
			雑費	0	30,000				雑費	0	30,000
			緑樹会グッズ作成費	273,350	0				緑樹会グッズ作成費	273,350	0
			HP制作費	213,840	0				HP制作費	213,840	0
			減価償却費	176,590	180,000				減価償却費	176,590	180,000
			予備費	0	1,000,000				予備費	0	1,000,000
			支出計	10,938,118	13,780,000				支出計	10,938,118	13,780,000
			特別損失(懇親会)	98,280	0				特別損失(懇親会)	98,280	0
			特別損失計	98,280	0				特別損失計	98,280	0
			支出合計	11,036,398	13,780,000				支出合計	11,036,398	13,780,000
			次年度繰越金	45,180,107	48,592,042				次年度繰越金	45,180,107	48,592,042
合計	56,216,505	62,372,042									

※R3予算の前年度繰越金は任意団体からの繰越金を記載しています。

50年

兵庫医科大学の

今号のテーマ 学舎

兵庫医科大学アーカイブズ室

兵庫医科大学は開学以来、校舎の建設、講義室の改修や改造を行いながら、教育・研究施設の整備を行ってきました。現在は6号館、7号館の敷地に教育研究棟、3号館・4号館・5号館の敷地には2021年4月に立体駐車場とデッキ棟が完成しました。また、9号館は新病院建設のための解体準備が進められています。そこで、今回は学舎である「3号館・4号館・5号館・9号館」をトピックスとともにご紹介します。



5号館 1971年(昭和46年)完成

■ 1982年(昭和57年) 6階東側食堂を5-3講義室に改造し、施設の拡充を行いました。

■ 2000年(平成12年) 3階に学生パソコン室を新設、大学実行委員会室、コピー室をリニューアルしました。また、旧5-1講義室に学生保健室が移転し、学生生活を支援するための学生相談室が併設されました。

■ 2002年(平成14年) 5号館6階(旧食堂)・3階西側フロア(学生自習室)を改修し、卒業試験及び医師国家試験対策を目的とした第6学年次専用のグループ学習室を設置しました。



4号館 1971年(昭和46年)完成

■ 1988年(昭和63年) 1室の講義室を4-1講義室(119席)、4-2講義室(64席)の2室にし、視聴覚設備を完備しました。

9号館 1984年(昭和59年)完成

■ 2000年(平成12年) ◎9-2講義室を135名収容できる階段教室に改修し、9-3講義室には移動間仕切ボードを設置して、少人数教育用講義室の機能を持たせました。◎9-A・9-B・9-C会議室を9-4・9-5講義室に改修しました。

◆参考:兵庫医科大学広報誌(発行学校法人兵庫医科大学事務局総務部)昭和57年4月20日第56号、昭和63年9月20日第95号、平成11年10月20日第157号、平成12年11月1日第161号、平成14年5月第168号

あのことろ通った、なつかしの味

インド 世界の味 **貧頭**



1 日替わりチキンコンボセット(1,100円)
2 チキンステーキ(880円) 3 仏教美術をあしらった店内
4 店内奥のバーには数多くのCDやレコード

ホ リューム満点の品々で兵庫医科大学の学生のお腹を満たしてきたのは、多国籍料理の「貧頭」。

「昔の学生さんは、みんなよくしゃべり遊ぶ人たちが多かったです。今もバーを併設していますが、昔はボトルキープもすごい量でした。彼らとは、ときには鳥取までキャンプや味覚狩りに行ったこともあります」と思い出話を聞かせてくれたのは店主の青木さん。当時は、学生と自らの年齢も近かったこともあり、まるで友人のような付き合い方をしていたという。

青木さん自身も当初は医者志望だったが、仏教系大学へ目標を転向。進学後は、学僧として京都の東寺で修行をしたり、世界各地をバックパックひとつで旅をしたりしていた。そんななかで出会ったのが、インドだった。インドカレーや仏教美術に魅せ

られ、その影響はお店にも息づいている。80種の本場のスパイスを使用しているというカレーは、幾重にもスパイスが絡み合った得も言われぬ複雑な味わいで、やみつきになること請け合い。この「日替わりチキンコンボセット」は今も兵庫医大生の一番人気だ。内装に使用されている仏教美術は45年前にインドで買ったもので、取り付けなども自で行ったという。

「一度食べれば、それを作ることができる」と語る器用な青木さんだからこそ、メニューが無尽蔵に増えていった。青木さんいわく作れる料理は「5,000を超える」のだそう。だからこそ、どんな人でもどんな気分の時でもフィットする料理が貧頭にはある。時世柄、食で異国情緒を楽しんでみたくなる、とっておきの場所だ。

私の思い出



平野 公通(昭和63年卒業)
医療人育成研修センター
卒業研修室長

学生時代、貧頭ではほんとによく飲みました。同期A野君と明るいうちからウオッカ二本空けて二人とも歩けなくなりO田さんに回収にきてもらいました。3年の夏の日だったかと。

お店の方より



昔、よくお店にきてくれていた学生さんたちとは、ほとんど会えていませんが、今も当時のことを懐かしく思います。ふとした折りにでもお店まで遊びに来てくれるとうれしいです。思い出話に花を咲かせましょう。美味しいごはんをつくって待っています。



インド 世界の味 貧頭

◆兵庫県西宮市小曾根町4-6-10
☎0798-46-9727
◎11:30~14:20(L.O.13:50)、18:00~20:00(L.O.19:00) ㊟月曜日定休
歩 兵庫医科大学より徒歩約15分



緑樹会からのお知らせ

議事録

令和2年度第4回定期理事会議事録

◎令和3年3月11日㊟18:30~19:30 ㊟オンライン形式

検討事項

- 1 法人設立日を令和3年6月1日(決算期:6月1日~翌年5月31日)とする。
- 2 会員の一般社団法人への移行は緑樹会としての決定事項の為、会員に法人への自動移行を文書で通知し期間内に退会希望の申し出があった者は5月31日付で退会扱いとする。
- 3 会費規定案は入会金1万円、正会員・準会員年額1万円、特別会員、学生会員無料。
- 4 代議員規定案は、代議員任期4年。定数は下限を設けず150名以内。選挙管理委員5名。
- 5 大学法人要職者を緑樹会特別会員とする。
- 6 令和3年度総会は7月3日(土)にハイブリッド形式で実施する。講演会、懇親会は新型コロナウイルス感染拡大を考慮して開催を見送る。
- 7 新規開業医への記念品贈呈条件となる会費納入は直近5年とする。令和3年6月1日以降に開業した者から適用。
- 8 緑樹会特別表彰者制度を将来企画で検討する。
- 9 緑樹会新HPでのコラム企画を自由題で兵庫医大の今を伝えるものを交えながらサイト認知度を高めるための取組みの一つとして始める。
- 10 会報は令和3年4月発行号からリニューアルを行う。

令和3年度第1回定期理事会議事録

◎令和3年6月10日㊟19:00~20:10 ㊟オンライン形式

検討事項

- 1 令和2年度決算、令和3年度予算案承認。今年6月1日に法人に移行するため5月31日にも決算を行い会計監査を6月9日に実施した。任意団体の繰越金は全額法人へ移行する。
- 2 第4回緑樹会学術奨励賞受賞者2名を承認。
- 3 緑樹会の広報活動にSNSを活用することについて検討する。
- 4 卒業記念植樹会は大学行事として行われているが、今後、緑樹会も参加を検討する。
- 5 地域医療課と連携して逆紹介マップ作成を推進する。
- 6 緑樹会会員一斉調査の実施を検討する。
- 7 2028年に1期生卒業50周年を迎える。記念事業の内容について引き続き検討する。
- 8 新規開業医への記念品贈呈基準に「近隣医師会への入会」を追加する。

報告事項

- 1 6月1日に法人登記を完了した。副会長、常任理事は役職を継続する。新法人では代議員制をとり、従来総会で決議していた事項を代議員会で審議決定する。代議員は新法人役員、旧理事、学年代表が就任。任期は4年。
- 2 退会者報告
一般社団法人への移行に伴う退会者は47名。

事務局より

令和3年度会費納入のお願い

同窓会は皆様の会費を基に維持運営されています。会費(年額1万円)の納入にご理解とご協力をお願いいたします。なお、過去の未納会費は随時納入を受付けております。会費納入状況の確認は事務局へご連絡ください。

今号の裏表紙

兵庫医科大学病院 救命救急センターにご協力いただきました

前列左から:小林 智行先生、白井 邦博先生、平田 淳一先生(H12)、宮脇 淳志先生(H3)、桑原 正篤先生(H14)
後列左から:西村 壮太先生(H31)、新海 貴士先生(H31)、村上 博基先生、高橋 知佳子先生(H31)、清水 美沙先生(H31)、野間 光貴先生(H31)、満保 直美先生(H20)

編集長
コラム

橋本 昌樹(平成17年卒業)
緑樹会常任理事

新しいデザインに生まれ変わって2号目の緑樹会会報誌はいかがでしょうか?“読みたくなる紙面”になりますよう編集委員一同、頑張っております。新型コロナウイルスの影響で非日常的な状況が続きますが、懐かしい母校や卒業生の記事をご覧頂き、皆様の気分転換の一助になればと願っております。まだまだ先が見えない状況ですが、開学50周年までカウントダウンがはじまっています!

編集後記

笠間 周平(平成10年卒業)
緑樹会理事

COVID-19が猛威を振るう中、クラブのOB会活動がなくなっているため本誌の「OB会便り」がしばらく掲載されていません。私が所属する軽音楽部は成績が悪いため(?)、本誌に登場するのはOB会便りだけだったのですが、今号では森村賞の小濱先生・藤川先生、講師就任の奥川先生・荒木先生、そして教授就任に私の学生時代のバンドメンバーである山村先生が寄稿されており、ご活躍を大変嬉しく思います。今後も一部の企画が無くなっても皆様の活躍を知ることができる、COVID-19流行下ならではの会報誌作りに努めていきたいと思っております。

緑樹会支部一覧についてはこちらのQRコードからご覧ください



10

YEARS OF
TRI-STAPLE™
TECHNOLOGY

A STAPLING INNOVATION



使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意点等の情報につきましては製品の添付文書をご参照ください。

お問い合わせ先
コヴィディエンジャパン株式会社
Tel: 0120-998-971
medtronic.co.jp

© 2021 Medtronic. Medtronic, Medtronicロゴマーク及びFurther, Togetherは、Medtronicの商標です。TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。
SI-A265

販売名: トライステープル 2.0 リンフォース
医療機器承認番号: 22800BZX00410000
販売名: Signia ステープリングシステム
医療機器承認番号: 228AABZX00088200
販売名: トライステープル EEA サーキュラー
医療機器承認番号: 23100BZX00110000

PP-OTH-JP-0431-02-06



Medtronic
Further, Together

// より良い明日へ

患者さんとそのご家族の「満たされたい願い」に応えるため、革新的な新薬をいち早くお届けすることが私たちの使命です。医薬品の開発を通じて人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。

バイエル薬品株式会社 <https://pharma.bayer.jp>

Science for a better life





PP-OTH-JP-0431-02-06




写真はCGイメージです

今お使いのメガネ に貼れる
半透明 で目立ちにくい
水洗い でき繰り返し使える

斜視弱視訓練用
一般医療機器

フリーサイズ
2枚入

MADE IN JAPAN

両眼をパッチリ
開けられる！

医療機器届出番号：04B3X10008000031
一般医療機器 / フレスネルレンズ
器 22 / 検眼用器具 / 検眼用品
製造販売：ヤグチ電子工業㈱

本社 / 〒441-0105 愛知県豊川市伊奈町新屋 279 番地
TEL.0533-72-5210 FAX.0533-78-3120
URL <http://www.ritz-med.co.jp>



株式会社 **リイツメディカル**



Imagine Your Happiness

あなたのあしたを想う

参天製薬株式会社
大阪市北区大深町 4-20 TEL 06-6321-7000 www.santen.co.jp

自動視力計

NV-350

- 4ヶ国語対応自動視力計
- マニュアル操作も可能
- データ通信可能

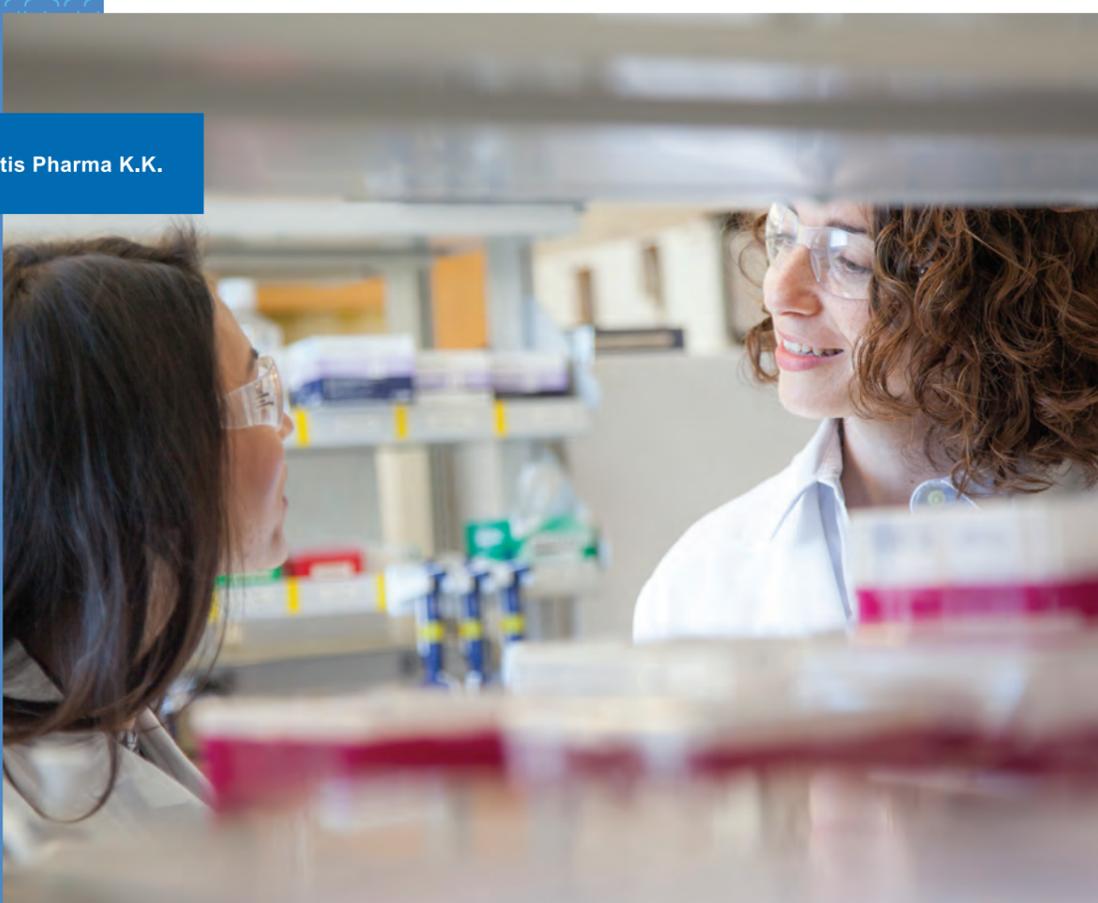




Eye & Health Care
株式会社 **ニデック**

<大阪営業部> TEL (06)6838-0030
URL <https://www.nidek.co.jp>

Novartis Pharma K.K.



新しい発想で医療に貢献します

ノバルティスのミッションは、より充実した、すこやかな毎日のために、新しい発想で医療に貢献することです。イノベーションを推進することで、治療法が確立されていない疾患にも積極的に取り組み、新薬をより多くの患者さんにお届けします。



NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>



一般社団法人 兵庫医科大学同窓会

緑樹会会報 No.79

〒663-8501 西宮市武庫川町1-1

TEL:0798-45-6448 FAX:0798-45-6449 MAIL:ryokuju@hyo-med.ac.jp

発行日/2021年10月1日 発行/兵庫医科大学同窓会 緑樹会 発行人/石蔵 礼一